

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2018
3
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第10号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

<巻頭言>

今、農業は大変ですね ～ 気候の変動と鳥獣被害 ～

- (和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 松岡 和美) …………… 1
ウメ産地の更なる発展を目指して (和歌山県果樹試験場うめ研究所 所長 片山 泰弘) …………… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- 地域の特性を活かしたブランド化農業 (和歌山市 地域農業士 貴志 年伸) …………… 3
まだまだ道半ばの発展途上者 ～ 初心貫徹を忘れずに ～
(岩出市 地域農業士 吉村 学) …………… 5
伝統の串柿と加工品開発で夢のある効率的で安定した経営を目指して
～ 一年を通して楽しい農業に ～ (かつらぎ町 地域農業士 山本 武美) …………… 7
仲間とともに、40年の歩み ～ 40年間、柑橘中心の農業でやってきました ～
(広川町 指導農業士 栗山 考昭) …………… 9
苦い経験を糧に (みなべ町 指導農業士 月向 雅彦) …………… 11
農家の先輩や近所の人達の指導のおかげもあって
(上富田町 指導農業士 下畑 千秋) …………… 13

<農業に懸ける想い>

若い農業者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 伝統を受け継ぐ大根栽培 (和歌山市 青年農業士 南方 一樹) …………… 15
果樹の高品質生産にむけて (紀の川市 地域農業士 小川 信久) …………… 16
効率的で安定した経営を目指して (かつらぎ町 青年農業士 櫻井 聡) …………… 17
祖父から受け継ぎ、次世代につなぐ (有田市 有田市4Hクラブ 橋爪 裕介) …………… 18
私の農業について (由良町 地域農業士 里地 芳卓) …………… 19
祖父のあとを継いで20年!! ～ 梅の特別栽培にこだわって ～
(田辺市 地域農業士 法忍 岳史) …………… 20

<役立つ情報、試験研究レポート>

- 2週間先までの気温の予測が分かる資料(確率予測資料)について
(和歌山地方気象台 調査官 原田 延明) …………… 21
和歌山県水稻奨励品種「つや姫」「にこまる」の特性について
(和歌山県農業試験場 栽培部 副主査研究員 宮井 良介) …………… 23
カンキツ黒点病に対する各種薬剤の防除効果
(和歌山県果樹試験場 環境部 副主査研究員 武田 知明) …………… 25

巻頭言

今、農業は大変ですね ～気候の変動と鳥獣害～

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 松岡和美



はじめに、農業士会会員の皆様をはじめ、ご協力いただいています県、市町村、JAの関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成29年度は、大雨による自然災害の多い年でした。私の近くでも、大災害が起きています。大雨で被災された方にお見舞い申し上げますと共に、早い復旧をお祈り致します。

私の住むかつらぎ町（四郷地区）は、平成29年3月に国道480号線の府県間トンネルが開通し、大阪へ出かける時間が短縮されて交通量も多くなりました。また、地元には道の駅「くしがきの里」が設けられ、直売所をはじめレストランやパン工房が入り、毎日大勢のお客様で賑わっています。

四郷地区は、標高450メートルの山間地です。ここは、地域の伝統農産物で、お正月にお鏡の上に飾る串柿の日本一の産地として全国に知られています。

串柿の生産は400年以上も続いており、私が嫁いで来た当時160戸の生産者がいましたが、今は60戸余りに減少しています。原因は、全国的に問題になっている高齢化と後継者が居ないことに加えて、気候変動の影響があります。温暖化のために、今まで自然乾燥で作業が出来ていたのが大変難しくなり、多額のお金をかけ乾燥設備を各家で導入しての作業に変わってきています。その一方で販売の単価は低いため、雇用をして生産している私の家も、今後の

経営を考える時期が来ていると感じています。

串柿以外にも、多種の果物を生産しています。主に柿、すもも、山椒、花木（高野まき）です。

毎日の作業は私ひとりで、休日には主人に手伝ってもらい、柿の摘蕾と山椒取りは雇用をしています。平成29年度は秋の長雨が柿にも影響し、汚染果（黒変果等）が発生して生産量が減少し、一部の品種ではJAへ出荷出来たのはいつもの4分の1になりました。

「農業は毎年一年生かなあ」と今までも思っていました。今年は特に思いました。

収穫前に鳥獣の被害で収穫が出来なかった事もありました。今後もまだまだ被害は増加すると思います。鳥獣との戦いになってきました。

今、自分の生産物、特にJAに出荷できない品物は、自分で販売する事を考えなければいけない時代かなと感じます。私も、加工にも少し手を掛けていますが、農業や農作業をしていくにあたっては勉強が絶えないと思います。

私はこの任期で農業士会も卒業です。

今のところ、私の家も後継者が居ませんが、皆様にご指導して頂き動ける間は、健康に気をつけて、農業経営を頑張りたいと思っています。

最後に、農業士会のますますのご発展と会員の皆様はじめ関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

巻頭言

ウメ産地の更なる発展を目指して

和歌山県果樹試験場うめ研究所

所長 片山 泰弘



農業士の皆様におかれましては、平素より地域のリーダーとしてご活躍され、地域農業の振興にご尽力されておられますこと心から敬意を表します。また、うめ研究所の業務に対しまして多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。

ところで「農業を取り巻く情勢は大変厳しい」という言葉を聞いて久しく、この間今日まで、生産者の皆様を始め関係者が一丸となって創意工夫を凝らしながら、様々な問題を乗り越えて来ました。今後も、高齢化や気象変動、消費の減少、消費者ニーズの多様化、国際化など農業を取り巻く環境がより変化していくことが予想されることから、更なる危機感をもっておく必要があると思います。

当研究所では、これらの課題に対応できる技術の開発を目指して「高品質安定生産技術の開発」「新品种の育成」「新加工商材の開発」「エコ農業の推進」を研究の柱として取り組んでいます。

高品質安定生産技術の開発では、気象変動に起因する梅生産量の増減に対し「南高」の開花生理を明確にした上で、より適切な授粉樹の探索を進めるとともに、省力化・低コスト化を含めた技術として低樹高と摘心の複合技術や安定生産可能な施肥体系の開発、「古城」の高品質多収栽培技術の開発に取り組んでいます。

また、新品种の育成においては、県オリジナル品種として自家和合性の「NK14」、β-カロテンが豊富な「橙高」を品種登録したほか、黒星病に対し抵抗性に優れる「星高」を平成28年6月に品種登録出願しています。今後とも、高品質で安定生産可能な耐病性・耐乾性・高機能性・省力性等の特性を併せ持つ新品种の育成に取り組んでまいります。

「南高」は、今後も梅のトップブランドを譲ることはないと思いますが、梅干しの消費が減少する中、将来的に加工品のアイテムを増やすことで梅全体の消費拡大が図られるものと考えます。そこで赤い色素の多い「露茜」、洋ナシ様の香りを持つ「翠香」、β-カロテンが豊富な「橙高」といった「南高」とは違った特長をもつ品種を用いた新加工商材の開発を民間企業や大学等と連携して進めています。

エコ農業の推進では、梅の病害虫の生態調査による効率的な防除、環境負荷低減技術の開発による総合防除技術体系の確立に取り組んでいます。

うめ研究所は、今後も梅産業の振興・発展に寄与すべく生産者の皆様や関係者の皆様と共に、様々な課題解決に取り組んでまいります。農業士の皆様方には、今後とも地域のリーダーとして地域農業を牽引されることをご期待申し上げますとともに、当所に対しましてご意見、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

私の農業

地域の特性を活かした ブランド化農業

和歌山市 地域農業士

貴志年伸



1. はじめに

私は昭和 60 年に県農業大学校（現県農林大学校）を卒業後すぐに就農しました。

私達の住む地域は砂地であり、その特徴を活かして昔から野菜が栽培されています。

就農当時はガラスハウスでシシトウを 10a、パイプハウスで丸ナスを 20a、露地で秋冬ダイコン 50a、ニンジン 30a を栽培していました。

2. 農業経営の特徴

就農して 5 年経った時にシシトウをピーマンに変更しました。収益が上がったことから翌年にはナスもピーマンに変更し、ピーマン栽培が主となりました。平成 10 年にはガラス、ビニールハウスの両方を撤去し、20a の連棟のビニールハウスを建てました。それを機にピーマンの無加温栽培を、高値販売できる加温栽培に切り替えました。JA のピーマン部会では選果場が整備され、約 20 年前に手詰めから機械詰めに変更されました。それにより時間に余裕ができ、ピーマンに代わり、軟弱野菜の作付けが増えてきました。その機械も老朽化が進んでおり、更新が必要になってきています。ニンジンでは収穫作業の省力化を図るため当時はまだ開発されたばかりの収穫機を導入しました。ニンジン収穫機は時間的にも体力的にも省力化に大変役に立ち、重宝しましたが、ニンジン栽培は水稲と作業が重なるために、春ダイコンに切り替えました。そして、10 年前に

農業経営の概況

○作付品目と面積	
コマツナ（施設）	1ha
シュンギク（施設）	40a
ハウレンソウ（施設）	20a
春ダイコン	20a
秋冬ダイコン	41a
トウガン	20a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	3人

は軟弱野菜を導入しました。年間の回転数が多いために忙しい思いをしますが、収益が確保できるために我が家の栽培の主役となっています。

軟弱野菜の高品質化のために酵素と液肥を含む葉面散布剤を使用しています。省力化のため基本的には散布は防除薬剤と同時散布としています。冬期は葉色の向上や成長促進、夏期は徒長防止を目的に散布しています。その葉面散布剤は高価ですが、散布すると翌日には効果が表れるので今は必需品となっています。

また、土壌改良材として牛糞とバークと活性炭を含む完熟堆肥を使用しています。砂地の畑が黒くなるくらい投入しました。それまでは単体で使っていた活性炭に比べると作物の品質が全く違うこともあり、完全に転換しました。

現在の課題は秋冬ダイコンの黒斑細菌病です。

我が家のほ場は周りで宅地化が進んでおり、他の農家の畑とは地続きではなく周りから隔離されているような状態なので、外部から病原菌が入ってきにくいのは良いことですが、それ以上に周りの住民の方には気を遣います。ダイコンの収穫作業は、朝早くから始めるのが通常ですが、あまり早くから収穫を始めると近所の方を起こしてしまうので、早くからは始められません。薬剤散布の際にも事前連絡が欠かせませんし、風の方向にも注意が必要となります。

また、建物が建つことにより日照時間が減ったり、排水が悪くなることもあります。

ダイコンの出荷はJAのみとしています。JAの大根部会の規約を遵守しています。

今回、ダイコン部会では出荷基準の改定を行いました。これまでより重量基準 50g 重くしました。ダイコンもライバルが多いのですが、他産地に比べるとボリュームが大きくなり、市場評価は好調です。そのため、今までより高価格で取引されるようになり、今回の基準改定の効果は上々です。

3. 今後の経営方針

これまでも高品質栽培を目指して栽培を行ってきました。ブランド化されている「布引だいこん」を更に発展させるためにも肥料を始め資材や栽培方法にこだわり、消費者の期待に応えられる高品質の農産物を生産していきたいと考えています。また、個人としてだけでなく、部会や産地全体が発展できるように力を尽くしたいと考えています。

4. おわりに

趣味は釣りとゴルフです。ゴルフを始めたのは親戚筋の婿さん連中と近所の方で親睦を深めようとしたのがきっかけです。それからもう 35 年になります。メンバーは 40 人ほどで年に 4 回大きい大会を開きます。軟弱野菜の栽培を始めてからは忙しくな

り、ゴルフに行く機会も少なくなりましたが、リフレッシュになりますので人生の楽しみとしてゴルフは続けていきたいと思っています。



栽培ハウス群



シュンギク収穫作業



コマツナハウス



ゴルフ トロフィー

私の農業

まだまだ道半ばの発展途上者 ～ 初心貫徹を忘れずに ～

岩出市 地域農業士

吉 村 学



1. はじめに

私は農業を始めてから12年になります。就農した頃の思っていた事は、自分が安全で安心出来るもの、自分が食べて美味しいもの、そして、消費者が笑顔で手に出来るものを作っていきたいと思っていました。しかし実情は、水稻、レタス、ハウス水ナスを、親の手伝い的な作業しか出来ていない状態でした。

そんな私でしたが、7年前の結婚を機にイチゴの高設栽培に取り組み、経営を独立させるようになりました。

最初は5aの連棟ハウスから始め、3年目に8aの連棟を増やし13aになりました。その翌年にはキウイフルーツ7aも始めました。

現在、イチゴ(まりひめ)13aとキウイフルーツ7aを私たち夫婦が栽培し、水稻60aとそれ以外の作物は両親と協力して栽培している複合経営の農家です。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	60a
イチゴ	20a
キウイフルーツ	7a
レタス	3a
○労働力	
家族	4人

2. 農業経営の特徴

イチゴを栽培するにあたって一番こだわっているのが、安心・安全についてです。消費者が安全で安心して口にできることは勿論の事、栽培している自分たちも安全で安心して栽培できるようにと考えています。

安心・安全の事を考えると無農薬で栽培するのが一番理想ですが、イチゴを無農薬で栽培する事はなかなか難しく実践的ではないので、出来るだけ農薬



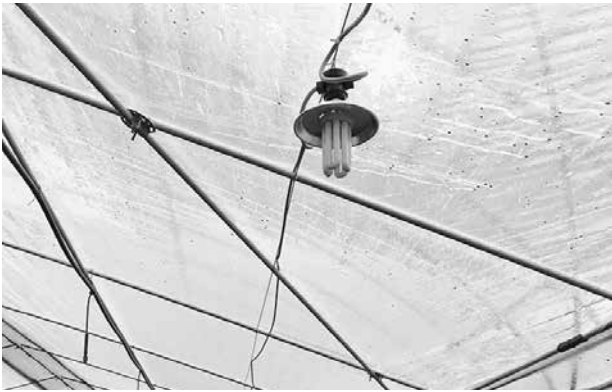
イチゴハウス



イチゴ苗の育苗期

の散布回数を減らせるように努力しています。

まず、地面から隔離された高設栽培用のベットにはヤシガラしか入っていないので、土壌に近づけるために堆肥、くん炭、有機肥料などを使い、微生物が増える様に工夫をし根域からイチゴの苗が病気に負けないようにしたり、農薬の代わりとなる天敵を積極的に活用したり、平成 28 年から和歌山県では初となる UV-B（紫外線）の照射によるうどんこ病の予防をしたりと、まだまだ、手探りではありますが農薬に出来るだけ頼らない栽培方法を実践しています。



ハウス内 UV-B(紫外線) 電球

7a のキウイフルーツは、まだ初心者のレベルを脱する事が出来ず暗中模索な段階ですが、まずは土作りからこだわって、健全な樹体を作り、健全な実が採れるように頑張っていきたいと思えます。



キウイフルーツ園

3. 今後の経営方針

今までは、こだわりを持ってイチゴの栽培をしてきただけで、漠然と JA に出荷していましたが、なかなか世間にはこのこだわりを知って貰うことができませんでした。

それで今年からは、JA の部会を離れ個選で市場と取引をはじめました。この取引を軸に県が薦めてくれている季節限定商品のまりひめプレミアム「毬姫様」に取り組むことなど、高品質なイチゴを安定的に生産し多様な方面に有利販売が出来るように手掛けていきたいと思っています。



イチゴ収穫期

4. おわりに

農業を取り巻く環境は日々刻々と変化を遂げている状況ではありますが、初心を忘れずに、個の力を信じて、またそんな状況を楽しみながら、今自分には何が出来るかを考え農業に取り組んでいきたいと思えます。

私の農業

伝統の串柿と加工品開発で夢のある 効率的で安定した経営を目指して ～ 一年を通して楽しい農業に ～

かつらぎ町 地域農業士
山本 武美



1. はじめに

私は短大を卒業後、病院に勤めていましたが、昭和58年にサラリーマンの夫と結婚。それを契機に退職し、23歳で就農。両親の手伝い（家業の農業）をしながら子育てをする毎日でした。

家は、柿の生産を主とし、秋には四郷特産の串柿も作っています。10年前からあんぼ柿、カット柿等の加工品も手掛ける様になりました。

平成21年（8年前）、夫の退職を機に夫婦主体で本格的に農業に取り組んでいます。

2. 農業経営の特徴

我家の農業は、ほぼ一年を通して収益があるように、5～6月は梅、7月は李、8～9月は葡萄（「ピオーネ」「ロザリオビアンコ」）、9～11月は柿（「中谷早生」20a、「刀根早生」200a、「平核無」50a、「太秋」10a、「富有」10a）、10～12月は柑橘類（温州ミカン、八朔、ネーブル等）、11～12月は串柿の加工、1～3月は柿加工品の販売（あんぼ柿等）というような経営をしています。

柿の摘蕾や摘果作業の時期は、葡萄の管理作業と重なるため、猫の手も借りたいほど大変忙しくなります。従って、この時期と柿の収穫時期、串柿加工の時期は臨時雇用で対応しています。

一方、農作物の販売は、JA 選果場への出荷が主体で家庭選別を徹底していますが、その過程で生

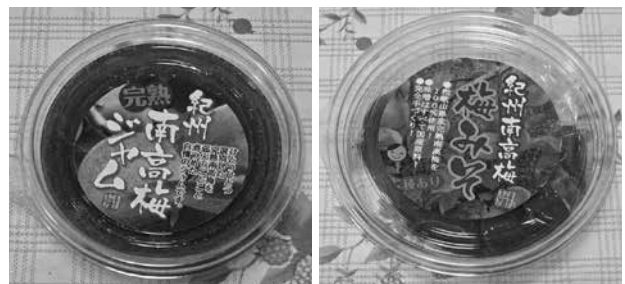
農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	290a
串柿用の柿	50a
梅	70a
李	20a
葡萄	18a
柑橘類	25a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	4人

じる規格外の農作物を直売所で販売したり、グループで加工して付加価値を付けて販売したりしています。

主な加工品には、南高梅を使った梅味噌、梅ジャムのほか、八朔、ジャバラ、柚子など柑橘類を用いたピール、ジャム等で、梅味噌に使う味噌も手作りで加工しています。

農作業をしながらの加工品作りは大変ですが、気



主力商品（梅味噌、梅ジャム）



ジャム各種（ネーブル、ゆず、はっさく等）



あんぼ柿



柿漬け大根



ピール各種



ドライフルーツ（太秋、たねなし柿、和み柿）



柿の葉茶

加工品ラインナップ

	加工品の種類	販売期間
主力商品	梅味噌、梅ジャム	年中販売
季節商品	ジャム各種（キウイフルーツ、ブルーベリー、李、ネーブル、ゆず、はっさく等） ピール各種（ゆず、はっさく、ネーブル、甘夏、河内晩柑、ジャバラ、スイートスプリング等） 柿加工品（あんぼ柿、吊るし柿、ドライフルーツ、柿の葉茶） 柿漬け大根（大根を紀の川柿で漬けたもの）	1～5月頃まで 1～5月頃まで 11～3月頃まで 12～1月頃まで

の合う仲間と楽しく和気あいあいと加工に励んでいます。

子供が退職後に「私もやってみたい」と思える様な農業にしていければと思います。

3. 今後の経営方針

今までの我が家の農業は、台風、長雨、干ばつ等の自然災害や農産物価格の暴落など自力では対応できない事に振り回されることが多くありました。今後は、そういうリスクをできるだけ抑えられる様な農業に移行していきたいと考えています。

具体的には、あんぼ柿等の加工品を増やすとともに、新しい商品の開発にも力を入れて安定した収益が得られるように努力していきたいと思ひます。

また、農作業の労力軽減のため、既存の傾斜地にある柿園は手間のかからない作物に改植し、新たに平坦地にある畑を借り受けて増やしていくことで、

4. おわりに

私の住んでいる四郷地区は、国道480号線の鍋谷トンネルが開通し、大阪方面への利便性がとても良くなりました。それに伴い道の駅「くしがきの里」もでき、交通量も増え、人の立ち寄りやすい地域になりつつあります。

これを機に、私たちが、次世代に明るい農業の未来を築いていってもらえる様に、微力ですが関わっていただけたいと思ひます。

また、これから先、年齢を重ねていっても、いつまでもチャレンジ精神を忘れずに、その時代のニーズに合った新しい事に取り組んでいきたいと思ひます。

私の農業

仲間とともに、40年の歩み ～ 40年間、柑橘中心の農業でやってきました～

広川町 指導農業士

栗山 考 昭



1. はじめに

私は、昭和49年に県農業大学校（現農林大学校）を卒業と同時に就農しました。

当時、温州みかんの全国生産量は300万tを越え、価格低迷期に入ろうとしていました。

このことから、みかん農家の後継者の中でも、他産業に就職していく若者がみられました。そんな時期にあっても、地元有田地方では自家を継いで就農する仲間が多くいたので、私は迷わず就農しました。

私たち就農した若者は、反骨心が強く、儲からないと言われる農業で「いかにして儲けるか」を考え、農業に夢を持っていた人が多く、私もその中の一人でした。

2. 農業経営の特徴

私が就農してまず取り組んだのは、みかん中心の栽培に中晩柑を仲間とともに取り入れることで、はじめにセミノールやカラなど、次に不知火を導入しました。

また、その後は、温州みかんの優良品種の導入に取り組み、極早生温州では日南1号やゆら早生、早生温州では田口早生などを増やしていきました。

栽培管理では、仲間とともに海藻資材を利用した土づくりや葉面散布により、果実の食味向上に取り組むほか、好気性微生物を利用した微生物農法を学んだり、篤農家に数年間にわたって剪定の指導を受

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	240a
極早生温州	40a
日南1号	30a
ゆら早生	10a
早生温州	80a
宮川早生	42a
田口早生	25a
興津早生	13a
中生温州	70a
晩生温州	50a
八朔	20a
セミノール	25a
カラ	10a
不知火	10a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	随時



不知火の園地

けたりしました。

仲間とともに実践したこれらの取り組みは、30年以上たった今でも続けており、私の栽培技術の礎となっています。

また、平成14年に水田転換園へ田口早生を改植するに当たり、2本主枝仕立てによる高畝栽培を行



田口早生の2本主枝仕立



出荷準備作業風景

い、1年生の苗木を定植して、3年目で初収穫することが出来ました。

現在この園地では、枝別交互結実を行っており、樹勢が強い田口早生において、良好な樹勢を保つとともに、連年安定生産しています。

販売については、市場出荷を中心に行っており、消費者により良い果実を提供するため、適期収穫はもとより、マルチ栽培などに取り組み、私たち夫婦は雇用者とともに丁寧な選果を心がけています。

今になって思うことは、長年にわたる仲間との新たな取り組みや、仲間と培った栽培技術、また、仲間とともに市場出荷で得られた関係者との信頼関係などは、私にとって大事な宝になっています。

3. 今後の経営方針

今の経営内容では、労力的な余裕があまりないため、現在の経営規模を維持していきたいと考えています。

これからも臨時雇用を効率的に活用しながら、高品質果実生産に取り組んでいくつもりですが、私の考えとしては、あまり儲けを追求するのではなく、「手間を惜しまず作った果物を買って、食べて、喜んでもらえる“ものづくり”でありたい」、「長い目で見た消費者ニーズにあったものを作りたい」と思っています。

健康であることが良いものを作れることだと思うので、しっかりと趣味の時間を取り、心と身体をリフレッシュしていきたいと思えます。

4. おわりに

就農してから40年以上が経ち、今は有田地方農業士協議会の役員として、農業士活動を通じ技術の研鑽や担い手の育成、地域農業の振興に取り組んでいます。

現在、地域で問題になっていることの一つに「鳥獣害問題」があり、イノシシやサル、シカ等による農作物被害に対して、地域でも様々な対策が行われています。

関係機関の支援のもと、町・県・国の補助金を活用することで、かなりの被害が減ってきたものの、今でも生産意欲減退の一因となっているのが実状です。

これからの鳥獣害対策は思い切った取り組みが必要だと考えています。

一つの提案として、ある地域の一定の山野に囲いを作り、そこにイノシシやサル、シカを閉じ込め、人里と分離することにより、「昔のような山野に戻せないものか!」と、今強く思っています。

私の農業

苦い経験を糧に

みなべ町 指導農業士

月 向 雅 彦



1. はじめに

昭和 59 年、22 才で就農。当初は青梅出荷が主力の経営でした。この頃から梅干価格の上昇が始まり、20 代は改植と栽培面積の拡大、梅干施設の整備を進めました。30 代では、将来の生産性を考え、園地の集約と基盤整備に舵を切りました。30 代後半には、梅干価格に変調の兆しが見え始め、何か新しい販路があればと思いインターネット販売を開始。40 代はほぼインターネット販売に力を注ぐことになりました。

2. 農業経営の特徴

就農して 30 余年。暴落あり、凶作あり、資金難あり、人手のピンチあり、病虫害の大発生あり、降雹（平成 18 年）あり、凍傷害（平成 19 年）ありと、いろいろな苦い経験をしました。その経験から「相

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	250a
○労働力	
家族	2 人
雇用	延べ 350 日

場に左右されない経営」「雹が降っても成り立つ経営」「1 年単位の売上だけをあてにしない経営」を目標にしています。

現在、園地は作業道ありきの設計です。防除にはスピードスプレーヤーを、灌水にはドリップチューブを導入しています。販売は主にインターネット販売です。青梅、梅干し、梅エキスを柱にその年の生産物を 3 年かけて売るようにしています。

ちょっと変わった作業の工夫として、梅干し用の



梅園地で使用している各種作業車

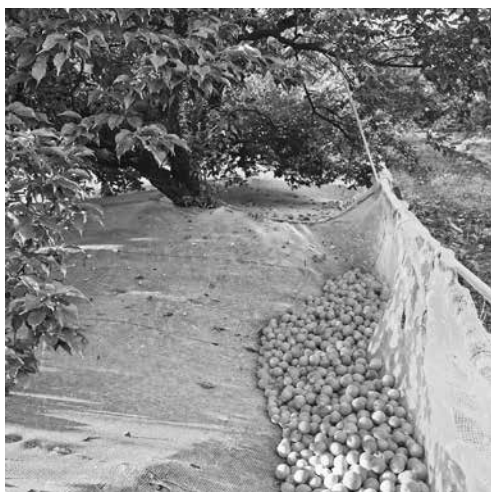


実の水浸漬にフレコンバックを利用

実の水浸漬方法には、メッシュタイプのフレコンバックを使用します。また、実の洗浄方法は、ブラシ洗浄機の欠点を補うために新しい洗浄機を開発しました。

3. 今後の経営方針

ライフステージから見ると、これまでは子供の成長に合わせた経営でした。その子供達が巣立ち、これからは夫婦の暮らしに合わせた経営になりなす。年齢的に無理がきかなくなり、収穫期の人手確保もままならず、「これからどうしよう?」と思い始めたちょうどその時、平成 28 年の大降雹害にあいました。当園では実の 9 割が格外科品という惨状でした。



収穫ネットに溜まった果実



ブラシに代わる新しい洗浄機

この苦い経験を糧に、「あの平成 28 年があったから、今がある」と言えるような「暮らしに合わせた経営」をしたいです。

4. おわりに

収穫期の人手確保がいよいよピンチです。収穫の機械化を真剣に考えてしまうほどのピンチです。作業道沿いの収穫ネットに溜まった実をバケットに入れる実験機 1 号を試してみました。当然上手くいきません。でも、改良を重ねれば上手くいけそうに思えました。「こうすればいいんじゃない! それよりこんな方法は?」とか、気づいた方、アドバイスいただければ幸いです。



収穫ネットごとすくい上げてバケットに入れる実験機 1 号

私の農業

農家の先輩や近所の人達の指導のおかげもあって

上富田町 指導農業士

下畑 千秋



1. はじめに

私は、非農家に生まれ育ちました。高校卒業後、和裁専門学校に進学、卒業後すぐ農家の長男であった主人に嫁ぎました。

主人の勤務の関係で、当初は有田川町（旧吉備町）で生活し、5年後に両親の住む上富田町に来ました。

主人は勤めもありましたので、私は何もわからないままに、両親の栽培する梅・すもも・温州ミカン・ナシ・水稻の簡単な作業から手伝いました。

その後、消毒・剪定など、色々な作業もできるようになりましたが、主人の急逝・義父の死と続き…。その後は、農家の先輩や近所の人達の指導のおかげもあり、現在は、梅・温州ミカン・水稻を栽培しています。

2. 農業経営の特徴

最近では、息子の嫁の手伝いもありますが、主に労働力は1人ですので、昔からの園地には、効率良く働きやすい様に、自動車や機械などが入れる園内道の整備をしています。

梅や温州みかんの販売については、ほとんどがJA出荷となっています。そんな中、温州みかんは、JA紀南が上富田町内で取り組んでいるコープこうべのプライベート商品である「フードプラン」の栽培に取り組み、極早生・早生の出荷をしています。

また、神戸中央青果を通じてコープこうべ店舗内

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	80a
温州みかん	60a
水稻	30a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用（収穫期）	3人



フードプラン栽培指定園地

での試食販売にも参加させてもらっています。店舗では、お客様と顔を合わせて話もできるので毎年楽しく活動させてもらっています。

「フードプラン」商品の栽培基準は、農薬の使用回数が慣行栽培の1/2以下となっています。肥料の化学合成窒素量は、年間9.8kg以内の施肥となっています。除草も草刈が主で農薬使用回数のカウン



コープこうべ店舗内での試食販売

トに入る除草剤は、年1回の使用となります。また、基本はマルチ被覆栽培です。規格に沿った減農薬・減化学肥料栽培などに取り組みながら、高品質を目標に生産しています。

制限のある中での高品質みかんの栽培は、正直大変と思うこともありますが、お客様が安心・安全と思購入してもらえるので、今後もしっかりと栽培に取り組みたいです。

また、梅については青果用で出荷を行っています。

上富田町では、産地をよく知ってもらうことで梅の消費拡大につなげようと、毎年、町内の梅園に青梅の主要取引先である関東地方の市場関係者を招いて交流イベントを開催しています。なかでも梅ジュース体験には、私も作り方を説明したり、補助をするため、スタッフとして参加しています。



都市と農村交流 梅ジュース作り体験



温州みかんのマルチ栽培圃場

梅や温州みかんの消費PRのためには、私たち生産者が市場や販売店と直接交流し、信頼関係を築いていくことが重要であると考えています。学んだことを活かせる交流イベントなどへは、私も楽しく参加しており、今後も続けていきたいです。

3. 今後の経営方針

これからは、古くなった園地の若返りと品種更新もして行きたいと思っています。

私がしている農業も今後どのようなようになって行くか正直わかりませんが、他の職種に就いている息子と共に考え、家族で出来る農業にしていきたいと思っています。

4. おわりに

私のような者が皆様の仲間に入れていただき、また、農家でなければ出来ない体験・勉強などたくさんさせていただくことが出来ました。

これからは、色々と学んで来たことを農業に活かしていければと思っています。最後になりましたが健康に気を付けて歳を重ねて行きたいです。

農業に懸ける想い

伝統を受け継ぐ大根栽培

和歌山市 青年農業士

南方 一樹



1. はじめに

私は、県農業大学校（現農林大学校）を卒業後就農し、5年目になります。子供の頃は漠然と農業を継ごうと思っていましたが、高校在学中に手伝いをしているうちに、徐々に就農をする決心が付き、県農業大学校へ進学しました。卒業前には海外留学も視野に入れましたが、なるべく早く就農して、技術を身につける方が良いと思い、卒業後すぐに就農しました。

2. 農業への想い・取り組み

我が家は両親と私、収穫期に雇用を1人入れて、4人で農業を経営しています。栽培品目は、6月～7月に人参、7月～9月に生姜、10月～11月にほうれん草、12月～2月に春菊、12月～3月に大根を栽培しています。特に大根は「布引だいこん」の産地として有名で、市場から非常に高い評価をいただいています。我が家では大根は1日に約200ケースをJAわかやまに出荷しています。

「布引だいこん」の長所は、肌ツヤが良く、肉質が柔らかいことで、煮付けに最適です。また、甘みが非常に強いため、サラダにしても美味しいです。

最近では品質向上を目指し、曲がり、重量、見た目等の規定を厳しくし、規定を満たしていない生産者には大根協議会が指導を行って品質の向上に努めています。そのため出荷調整にも時間がかかりますが、この徹底ぶりが「布引だいこん」のブランドを守ることに繋がると思い協議会の皆で取り組んでいます。

現在布引には、若い生産者が多く、ほとんどの方が大根を栽培しています。現状に満足せず、様々な栽培

農業経営の概況

○作付品目と面積	
大根	55a
ニンジン	55a
生姜	60a
ほうれん草	40a
春菊	40a
○労働力	
家族	3人
雇用	1人

方法を検討しながら、「布引だいこん」のブランドを進展させられるように、より一層の努力を続けていきたいと思っています。



大根収穫作業



春菊収穫作業

農業に懸ける想い

果樹の高品質生産にむけて

紀の川市 地域農業士

小川 信久



1. はじめに

我が家は和泉山脈の南向き斜面で、普段は両親と3人で果樹栽培をしています。

就農した頃は、古い品種の大きな木ばかりで、樹間も狭く作業効率の悪い園地ばかりでした。

管理も行き届かず病害虫も多く、隔年結果も激しく、作業も遅れたり、品質、収量も安定していませんでした。

その様な園地では、雇用も考えにくい状況でした。

2. 農業への想い・取り組み

高品質生産のために、色々と両親と現状を話し合った結果、まず改植に力を入れる事にしました。

温州みかんは、早生・中生・晩生のバランスを整え、旬の時期に旬のものを出荷できるように、老木は優良品種に切り替えました。また、園内道を増やし、畝間を大きく取ることで作業のしやすい園地に変えています。

まだまだ途中で、思ったとおりには行きませんが、自信を持って売れるものが生産出来るようになれば、



平坦で作業のしやすい梅園（左）と柿園（右）



優良品種に改植した温州みかん園



農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	250a
柑橘	50a
柿	60a
梅	30a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	5人

雇用も増やし、大きなロットで安定して優良なものを供給できる形にしていきたいと思っています。

農業に懸ける想い

効率的で安定した経営を目指して

かつらぎ町 青年農業士
櫻井 聡



1. はじめに

私は、学卒後、福祉施設で介護の仕事に7年間従事していましたが、農業をしたいとの思いが強くなり、平成24年に退職し、就農。早いもので5年になります。

我が家は、祖父の代からの柿農家です。主力品種は、9月初めに収穫できる極早生「紀北川上早生」に始まり、「刀根早生」「平核無」「富有」です。柿の収穫は11月末まで続きます。

私が子供の頃は、祖父を中心に祖母、父母の4人で経営していましたが、今では祖父母が高齢になり、父と母がその後を引き継いでいます。

就農当初、私は親の経営とは別に、近隣の遊休地や柿畑を借りて、夫婦で農業を始めました。

始めはわからない事、うまくいかない事ばかりでしたが、その都度、祖父や父に聞きながら、スタートしました。日々の農作業の実践を通して、技術を習得し、経験を積み重ねています。

2. 農業への想い・取り組み

作業効率向上のため、借地の地主さんの了解を得て柿畑の園内道整備に取り組んでいます。

また、側枝剥皮などの着色促進技術を駆使して「刀根早生」の早期出荷や紀の川柿、甘熟富有柿などの処理を施し、付加価値を付けて、有利に販売できるよう努力していきたいと思っています。

さらに、県育成の甘ガキ「紀州てまり」にも期待しているところです。

一方、私の住んでいるかつらぎ町では、平成26

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	100a
(内訳：極早生 10a、刀根早生 50a 平核無 10a、富有 30a)	
玉葱	10a
芍薬	2a
○労働力	
家族	2人



柿のせん定

年に「担い手交流会」が発足し、町内に住む同年代の農家27名の交流の場として、栽培技術や販売先の開拓など情報交換を進めています。具体的には、JA選果場、直売所、道の駅等への出荷だけでなく、他地域でのイベントにも参加して「和歌山の柿」のPRや販売を行っています。

「桃栗三年柿八年」。ことわざにもある様に、柿が成木になるには年数もかかりますが、地域の先輩や担い手交流会の仲間とともに、JAや普及指導員等の関係機関の指導もいただきながら頑張っていきたいと思っています。

農業に懸ける想い

祖父から受け継ぎ、 次世代につなぐ

有田市 有田市4Hクラブ
橋爪 裕介



1. はじめに

学生時代、祖父の家のみかん採りなどを手伝ううちに、農業という仕事に魅力を感じ、卒業後に就農しました。

2年目の秋に、祖父が突然の病で入院したため、みかんの収穫・選別・出荷に加え、20人近い季節労働者の管理などを一人ですることとなり、自分の経験や知識不足を実感しました。地域の農業者との交流を深めるため、会合等に積極的に参加するとともに、4Hクラブにも加入し、現在会長を務めています。

2. 農業への想い・取り組み

就農して4年が経ち、最初に祖父から時間をかけて教えてもらった「誘引」の技術を自分のものになりたいと考えています。理想の樹形に近づけることで、日照・通気性・農薬の付着が良くなるとともに、摘果や除草剤散布等の作業効率も上がります。



重点作業の「誘引」

また、「消費者においしい果実を長い期間届けたい」という想いから、早生みかんのマルチ栽培を開始し、清見・不知火・カラ等の中晩柑に加えて、シークワサーやフィンガーライムを試験栽培中です。

2人目の子供が生まれ、昨年まで作業を手伝ってくれていた弟が家を離れ、祖母も高齢になってきて

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	
極早生	30a
早生	40a
中生、晩生	160a
中晩柑	
清見、カラ等	70a
○労働力	
家族	1人
臨時雇用	10人

いることから、面積を維持しつつ、日常の管理を1人でやれる働き方を日々考えています。

欠くことの出来ない雇用者については、県内を主とした20歳代が中心で、賃金だけでなく、やりがいを持って気持ちよく働ける環境づくりを心がけた結果、ほぼ全員が継続して来てくれており、仕事を任せられる人材も出てきました。

今後、雇用者や自分の子供が「有田のみかんづくり」を職業の1つとして選択してもらえるような経営を実践していきたいと思えます。



マルチ栽培を拡大

農業に懸ける想い

私の農業について

由良町 地域農業士

里地芳卓



1. はじめに

私は、就農して今年で6年目を迎えます。

経営内容は、柑橘類のみで、中でも「ゆら早生」の栽培面積を増やしています。他には、温州みかんでは「宮川早生」、晩柑類では「八朔」を中心とした経営をしています。



6年目になるみかん栽培

2. 農業への想い・取り組み

私の家では、できるかぎり雇用を控えて、私と両親の家族3人の自家労働力だけで農業経営をしています。そのため、就農当初より間伐や園内道の整備などによる作業の効率化を進めています。そして、両親の年齢も考えて、2軒の農家で園地を借り、そこでは共同経営をしています。

温州みかんでは、品質向上を目的にマルチ被覆、フィガロン乳剤の散布をしています。また、近年では数年前より小玉の階級を好む傾向にあるようなので、摘果作業の内容を少し変え、M玉やS玉を中心とした果実の栽培に取り組んでいます。

晩柑類では、八朔・甘夏・セミノールなど様々な品種を栽培していますが、温州みかんに比べると老木化

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	200a
八朔	50a
甘夏	30a
セミノール	50a
○労働力	
家族	3人

が激しく、改植を考えたいのですが、これといった品種が見当たらず、補植で対応しているのが現状です。

また、最も悩んでいるのが、イノシシによる被害です。対策として、全園地に電柵を引いているのですが、ここ最近はあまり効果がなくなってきています。来年からは、少しずつ園地をトタン等で囲うことを予定しています。

これからも農業を健康でやっていければと思います。



筆者のほ場

農業に懸ける想い

祖父のあとを継いで 20 年！！ ～ 梅の特別栽培にこだわって～

田辺市 地域農業士

法 忍 岳 史



1. はじめに

私は、就農して今年で 20 年目になります。振り返ってみるとあっという間の 20 年です。

当時、サラリーマンとして働いていた私は、将来農業士として頑張っていようとは露ほどにも想像していませんでした。

2. 農業への想い・取り組み

おりからの不況のあおりを受けて月々の給料が減ったことで、転職を決意した私でしたが、簡単に好条件の転職先が見つかるはずもなく、これからどうしようかなと途方に暮れていました。

わが家は、祖父が農業を永年営んでいましたが、父は農業を継がずにサラリーマンをしていました。しかし、私が転職を希望していた頃は、祖父は高齢のため、園地にあまり行くことなく、父と母が休日を利用して切り盛りしているような状況でした。仕事はないが時間だけは売るほどあった私が、労働力として駆り出されることはとても自然な流れでした。

いざ、農業に足を踏み入れてみると、割と自分の性分に合っている気がして、父母・祖父に自分が農業を継ぐと言い出すまでにさほど時間はかかりませんでした。

当初、祖父が所有していた農地には、梅を栽培しており、面積は多くありませんでした。元来、人と違ったことをしたくなる癖がある私は、反収を上げるという目論見も含めて、減農薬栽培に取りかかります。しかし、農業初心者の私がうまく行くはずもなく、1 年目は散々な結果となりました。

その後、縁があって地元で特別栽培に取り組んでいる方々と知り合い、JA の梅特別栽培研究会にも入れていただくことになりました。その中で、平成 13

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	200a
柑橘類	35a
温州みかん	25a
中晩柑	10a
○労働力	
家族	1 人
臨時雇用	5 人

年から研究会の会長という大役も務めさせてもらい大変勉強になっています。

20 年間という膨大な時間がたった割に自分自身の成長はあまり感じないのが寂しいところですが、世間は絶えず流れています。

当初、先進的な取り組みだった特別栽培も、現在では、有機栽培にその場を譲っている現状です。しかし、慣行農法と有機農法の間地点にある特別栽培…。中間地点にあるからこそ展開していくニーズはもっとあるはず。私は、これからも特別栽培にこだわって農業に邁進していきたいです。



特別栽培園地 作業効率を考え剪定

2週間先までの気温の予測が分かる資料 (確率予測資料) について

和歌山地方気象台 調査官 原田 延明

1. はじめに

気象庁では、2週間先までに顕著な高温・低温及び大雪が予想される場合には、月曜日または木曜日に異常天候早期警戒情報を発表します。この情報の補足資料として、2週間先までの気温の予測が分かる資料（確率予測資料）を気象庁HPで公開しており、毎週月曜日と木曜日に最新の予測データに更新されます。この資料を利用することで、高温や低温による農作物の災害リスクを軽減することが期待できますので、ここで紹介します。

2. 確率予測資料の表示手順

目的のページをご覧いただくには、気象庁HPのトップページで「各種データ・資料」タブをクリックし（図1）、画面を一番下までスクロールして、左から2列目の一番下の「確率予測資料」をクリックします。確率予測資料のページに移動しますので、「最新の確率予測資料（累積確率・確率密度分布図）」をクリックして下さい。このページで、調べたい地点や注目する気温などを任意に設定します（図2）。地点は、地域で「近畿地方」を選んでから、「和歌山」か「潮岬」を選択します。次に、自分が注目する気温を選び、高温リスクを調べたいときは「超過」を、低温リスクを調べたいときは「以下」を選択します。



図1 トップページから「各種データ・資料」タブへ

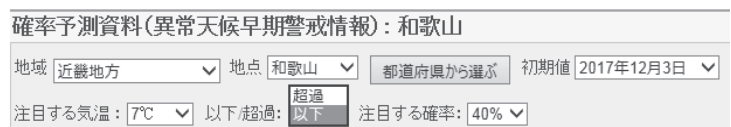


図2 地点、気温、以下 / 超過の設定画面

3. 表示結果

表示結果の例を図3に示します。なお、確率予測資料で示される気温は7日間平均の値です。注目する気温を何℃に設定するかで迷うときは、参考としてグラフの右下に掲載される当期間の平年値を参考にするといいでしょう。この例では、当期間の平年値（8.5～8.9℃）より約2℃低い7℃を「注目する気温」とし、「以下」を選択しました。グラフは、12月4～18日の期間に、7日間平均気温が7℃以下となる確率を時系列で表しています。これを見れば、「12月4日からの2週間では、7日間平均気温が7℃以下となる可能性

注目する気温: 7°C 以下/超過: 以下 注目する確率: 40%

※確率予測資料は、予報の基礎資料である数値予報の計算結果から自動作成したものですので、気象庁が実際に発表する異常天候早期警戒情報と異なる内容が含まれる場合があります。

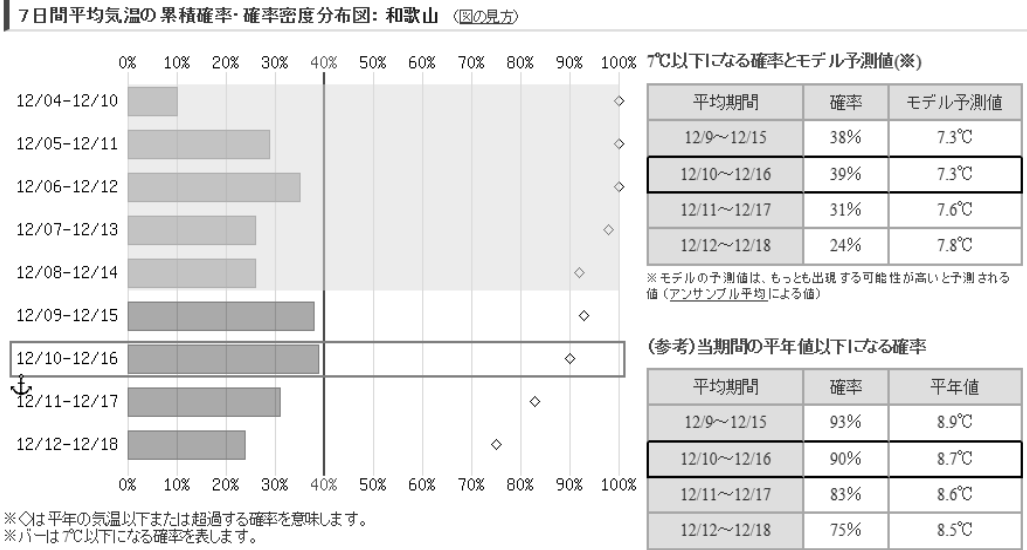


図3 7日間平均気温が注目する気温以下(超過)となる確率の時系列図

が最も高いのは12月10日からの1週間で、その確率は39%』ということが分かります。

図3の時系列図で、下の4本の棒グラフの中から一本をクリックすると、選択したことを示す錨マークが現れます。図4の累積確率・確率密度分布図は、この錨マークが付いた期間の資料を表示します。グラフ中央の太い縦棒(ホームページ画面では青色の縦棒)はマウスで左右に動かすことができ、縦棒が予測の累積確率(右肩上がりの曲線)と交差したところが、その気温以下となる確率を表しています。これにより、任意の値をしきい値とした確率情報が分かります。また、確率密度(山型の曲線)は、山のピーク付近がその気温が出現する可能性が大きいことを示します。この例では、「12月10~16日の7日間平均気温は、平年より1.5°C程度低くなる可能性が大きい」ことが分かります。

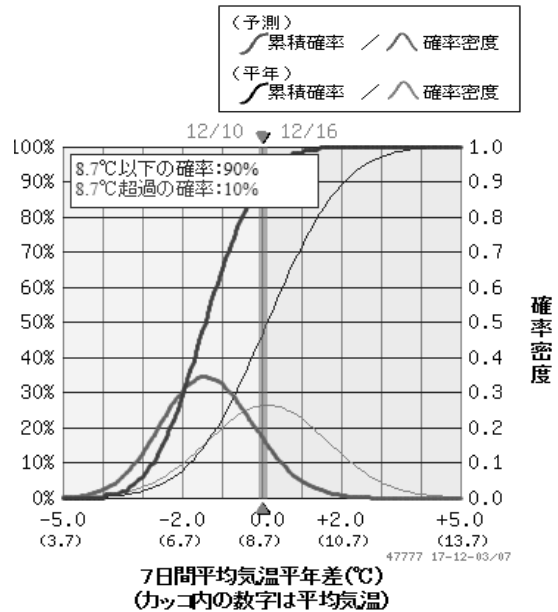


図4 累積確率・確率密度分布図

4. おわりに

このように、確率予測資料は利用者が任意に注目する気温を決めることで、その気温以下(または以上)となる確率を知ることができます。高温や低温による農作物への影響は、作物の種類により対策を始める温度が違ふと思いますので、この資料を、個々の農作物の高・低温リスク軽減のための事前対策にご活用いただければ幸いです。

試験研究レポート

REPORT

和歌山県水稲奨励品種「つや姫」「にこまる」の特性について

和歌山県農業試験場 栽培部 副主査研究員 宮井良介

1. はじめに

近年、夏季が高温で推移することにより白未熟粒の発生が助長され、玄米外観品質の低下が問題となっています。和歌山県の水稲栽培面積の約半分を占める極早生品種「キヌヒカリ」、晩生の主力品種「ヒノヒカリ」でも白未熟粒の発生が多発しており、検査等級を下げる主な原因となっています。そこで、夏季の高温による白未熟粒の発生が少ない、外観品質に優れる品種として、「つや姫」と「にこまる」が平成29年2月24日に和歌山県水稲奨励品種に採用されました。

2. 「つや姫」の来歴と特性

「つや姫」は山形県立農業試験場庄内支場（現山形県農業総合研究センター水田農業試験場）において、良質・良食味米の育成を育種目標に選抜・育成され、平成21年2月に「つや姫」と命名されました。和歌山県では平成20年より奨励品種決定調査において試験を開始し、特性を把握してきました。

つや姫の和歌山県での特性は、「キヌヒカリ」と比べ稈長、穂長は同程度で穂数はやや多いです。出穂期は2日程度、成熟期は3日程度遅く、本県では極早生に属します。草型は中間型で、稈の太さは中、耐倒伏性はやや強です。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPii、Pikを持つと推定され、葉いもち圃場抵抗性は強、穂いもち圃場抵抗性は不明です。白葉枯病抵抗性はやや強、縞葉枯病抵抗性は罹病性です。穂発芽性は中です。

「キヌヒカリ」と比べ収量は多く、白未熟粒の発生が少なく、整粒率が高くなっています（表1）。



図1 成熟期のつや姫

表1 つや姫の特性

品種名	両親の組み合わせ	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	耐倒伏性	玄米収量 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	品質	白未熟粒					整粒率 (%)	採用年次
											心白	乳白	基部未熟	背白	腹白		
つや姫	山形70号×東北164号	8.12	9.19	79.8	18.5	319	やや強	59.9	22.2	4.2	1.2	0.5	0.6	0.2	0.1	70.8	平成29年
キヌヒカリ	(収2800/北陸100号)F1 ×北陸96号	8.10	9.16	81.0	18.4	293	やや強	55.1	22.4	5.5	2.4	0.8	0.9	0.6	0.3	61.1	平成2年

注) データは農業試験場の奨励品種決定調査(平成22年~平成28年)の平均値。移植期は6月16日。

耐倒伏性:0(無)~5(甚)の6段階で評価

品質:1(上・上)~9(下・下)の9段階で評価

心白、乳白、基部未熟、背白、腹白の発生程度は0(無)~5(甚)の6段階

整粒率(%)は精玄米を品質判定器 ES1000(静岡製機)で測定したもの

3. 「つや姫」の栽培上の注意点

「つや姫」の適地は県内全域の平坦地です。栽培要件として、特別栽培または有機栽培で栽培することとされています。また、登熟期間が高温となると白未熟粒の発生が増えるので、極端な早植は避けて下さい。

4. 「にこまる」の来歴と特性

「にこまる」は九州農業試験場水田利用部育種研究室（現九州沖縄農業研究センター筑後研究拠点稲育種ユニット）において、高温気象下でも高品質・良食味と多収性を併せ持つ新品種の育成を目標に選抜・育成され、平成17年に「にこまる」と命名されました。和歌山県では平成23年より奨励品種決定調査において試験を開始し、特性を把握してきました。

「にこまる」の特性は「ヒノヒカリ」と比べ、稈長はかなり長く、穂長は並で穂数は少なく、耐倒伏性は同程度です。出穂期は3日程度、成熟期は5日程度遅く、本県では晩生に属します。草型は中間型で、稈の太さは中です。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPia、Piiを持つと推定され、葉いもち圃場抵抗性はやや弱、穂いもち圃場抵抗性もやや弱であると考えられます。縞葉枯病抵抗性は罹病性です。高温登熟性は中、高温寡照耐性は「ヒノヒカリ」より明らかに優れます。

「ヒノヒカリ」と比べ収量は多く、白未熟粒の発生が少なく、玄米外観品質が優れています（表2）。



図2 成熟期の「にこまる」

表2 「にこまる」の特性

品種名	両親の組み合わせ	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	耐倒伏性	玄米収量 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	品質	白未熟粒					整粒率 (%)	採用年次
											心白	乳白	基部未熟	背白	腹白		
「にこまる」	きぬむすめ×北陸174号	8.28	10.09	88.7	17.5	306	やや強	53.9	23.6	2.4	0.7	0.1	0.1	0.0	0.1	69.3	平成29年
ヒノヒカリ	黄金晴×コシヒカリ	8.25	10.04	81.6	17.9	344	やや強	52.2	22.3	5.6	1.9	1.0	0.5	0.2	0.0	70.2	平成5年

注) データは農業試験場の奨励品種決定調査(平成23年～平成28年)の平均値。移植期は6月16日。

耐倒伏性: 0(無)～5(甚)の6段階で評価

品質: 1(上・上)～9(下・下)の9段階で評価

心白、乳白、基部未熟、背白、腹白の発生程度は0(無)～5(甚)の6段階

整粒率(%)は精玄米を品質判定器 ES1000(静岡製機)で測定したもの

5. 「にこまる」の栽培上の注意点

「にこまる」の適地は県北部、県中部の平坦地と考えられます。

「ヒノヒカリ」より熟期が遅いので、標高の高いところでは作付けしないで下さい。

平坦地においては極端な晩植は避けましょう。

6. まとめ

「つや姫」は極早生品種の中では、登熟期の高温に強く、高品質が期待できます。「にこまる」は多収で良質な西日本で普及が進んでいる晩生品種です。農業試験場では、高品質栽培のための栽培試験に取り組んでおり、普及面積の拡大を目指しています。

試験研究レポート

REPORT

カンキツ黒点病に対する各種薬剤の防除効果

和歌山県果樹試験場 環境部 副主査研究員 武田 知 明

1. はじめに

カンキツ黒点病はウンシュウミカン等のカンキツ栽培における重要病害です（図1）。主な防除対策は、伝染源である枯れ枝の除去と薬剤防除です。薬剤は主にマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤）またはマンネブ水和剤（エムダイファー水和剤）が使用され、5月下旬頃の1回目散布以降は1か月または積算降水量200～250mmで次の散布を行うよう指導されています。しかし近年、集中豪雨などで積算降水量が多くなり、上記薬剤の使用回数が上限に達し、生育後期の防除が不十分となる場合があります。また、上記以外の登録薬剤の残効性や耐雨性についての知見は不足しています。

そこで今回、黒点病に対する各種薬剤の残効性や耐雨性について検討を行いました。

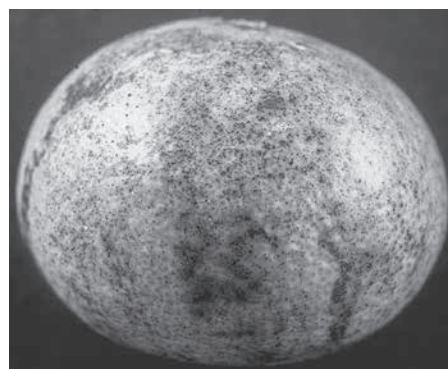


図1 黒点病の被害果

2. ジチアノン水和剤（デランフロアブル）の防除効果

幼果期の5月27日にジチアノン水和剤（1,000倍、1,500倍）を1回散布し、その後の発病が抑えられる期間を調査することで残効性を検討しました。比較対照には慣行薬剤であるマンゼブ水和剤（400倍、600倍）を用いました。その結果、ジチアノン水和剤は1,000倍、1,500倍ともに40日後（積算降水量377.5mm）まで発病が増加せず、慣行薬剤とほぼ同等の残効が認められました（図2）。

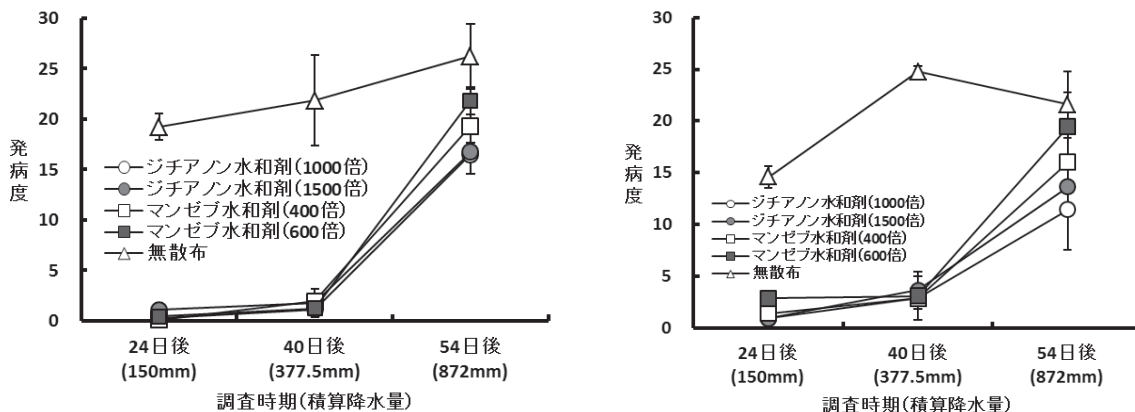


図2 ジチアノン水和剤とマンゼブ水和剤の残効性の比較（平成27年試験）

注) A: 「興津早生」(各処理4樹)、B: 「せとか」(各処理3樹)
発病度は、0に近いほど発病の程度が軽微で100に近いほど激しいことを示す
マンゼブ水和剤(400倍)は「せとか」などのかんきつに対しては登録がないため注意が必要
グラフ中の縦棒は標準誤差

3. クレソキシムメチル水和剤（ストロビードライフロアブル）、ピラクロストロピン・ボスカリド水和剤（ナリア WDG）、ピリベンカルブ水和剤（ファンタジスタ水和剤）の効果

上記の3剤を5月20日に散布し、試験2と同様の方法で残効性を検討しました。その結果、これらの3剤は、ジチアノン水和剤や慣行薬剤のマンゼブ水和剤ほどの残効はありませんが、32日後（積算降水量163mm）または34日後（同199.5mm）まで発病が増加せず、一定の効果が認められました（図3）。

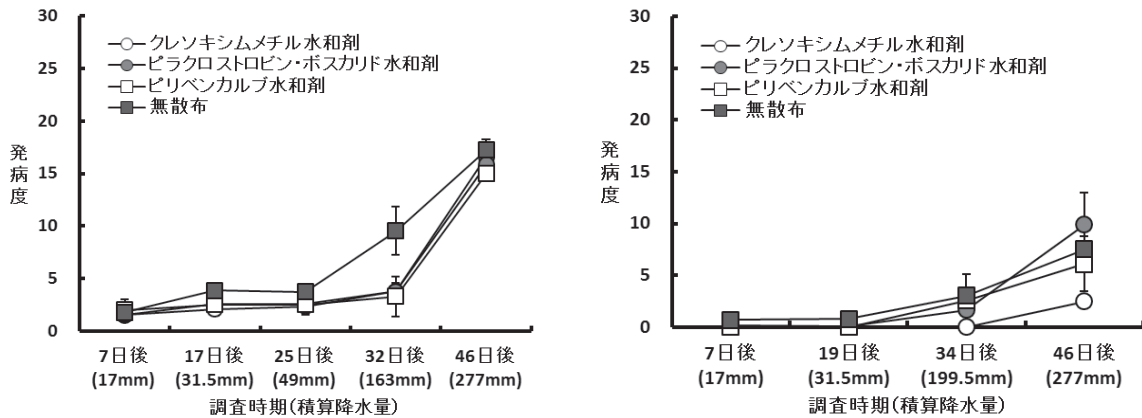


図3 クレソキシムメチル、ピラクロストロピン・ボスカリド、ピリベンカルブの各水和剤の残効性（平成28年試験）
注）A：「日南1号」（各処理4樹）、B：「林温州」（各処理3樹）。グラフ中の縦棒は標準誤差

さらに、6月2日、23日、7月18日、8月13日にマンゼブ水和剤（600倍）を散布し、9月22日に試験薬剤3剤を追加散布する試験を行いました。その結果、いずれの薬剤も追加散布することで発病は少なくなったため、追加散布は有効であると考えられました（図4）。

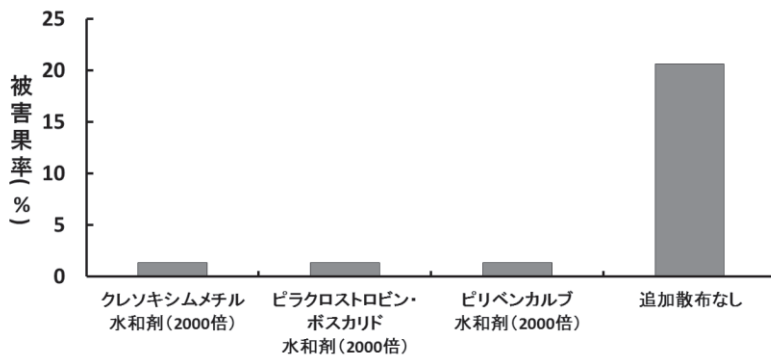


図4 秋季に薬剤を追加散布した場合の防除効果（平成26年）

注）興津早生（各処理3樹）を用い、10月30日に調査を行った。商品価値を損なう程度の発病果を被害果とした。9月25日の時点では全区で被害果率0%。9月22日～10月30日の降水量は200.5mmであった。

4. まとめ

試験の結果、ジチアノン水和剤を散布した後の次の散布時期は、慣行薬剤と同じく「1か月後または積算降水量200～250mmに達した時点」として問題ないと思われました。ただし、ジチアノン水和剤は夏季高温時の散布で果皮への薬害の可能性が指摘されているため、春季の散布が適しています。また、マシン油乳剤との近接散布でも薬害が生じる可能性があるため注意が必要です。

収穫が近い時期に防除を行う必要が生じ、慣行薬剤が収穫前日数の制限で使用しにくい場合は、日数が比較的短いクレソキシムメチル水和剤等を追加散布することにより、被害を抑えることができます。

以上のことから、1回目の防除にジチアノン水和剤を使用し、その後慣行薬剤で防除を行い、収穫が近い時期にはクレソキシムメチル水和剤などで対応することで、多雨条件下でも薬剤の効果がきれにくい防除が可能になると考えられました。

農業士会支部活動レポート

REPORT

平成 29 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

1. 総会及び講演研修会

和海地方農業士会（宮尾 修司 会長）は、4月7日に紀三井寺ガーデンホテル はやしにおいて平成29年度総会及び研修会を開催しました。

総会は会員40名の出席のもと、平成28年度活動経過及び29年度活動計画とそれに伴う決算、予算が議案書のとおり承認されました。

総会終了後に、「農業で起業～ゼロから上場まで～」と題し、株式会社 農業総合研究所 代表取締役社長 及川智正氏から講演をいただきました。

及川社長の講演は、和歌山県内で就農した時の経験から、農業者が今以上に収入を得てしかるべきだがそうっていないことに疑問を感じ、農業者の収入が上がるシステムを作りたいと考えたのが研究所立ち上げのきっかけとなったことや、起業するためのスタッフ集めや業務拡大のための苦労話や、同社が展開する都会のスーパーマーケットのインショップ「農家の直売所」の状況、出荷者が出荷物の状況を把握できるタブレットのシステムの紹介がありました。時おり笑いが起こる楽しい研修となりました。



平成 29 度総会



及川社長講演

2. 農家経営研修会

7月25日に和海地方農業生活連絡協議会（和海地方の農業士会、生活研究グループ、青年農業経営者協議会、4Hクラブで組織されている団体 会長は宮尾農業士会会長）が紀美野町総合福祉センターにて農家経営研修会を開催しました。

話題提供として日本政策金融公庫の皆川農業食品課長から農業経営者へのアドバイスを行う「和歌山県農業経営アドバイザー連絡協議会」の活動の紹介があり、その活用方法についての説明が行われました。

その後、講演として、県農業経営アドバイザー連絡協議会の会長でもある税理士法人風神会計事務所の風神正典氏から「農業後継へのスムーズな農業継承と第三者移譲について」と題して講演を頂きました。まず、帳簿や事業計画書等で数字を明確にすることが重要であるとの話から始まり、個人農業者が後継者に経営継承を行う前にやっておくべき事や相続、贈与等の手続き、法人で経営継承する場合の形態による制度上のメリットについて説明がありました。最後に最近注目されている第三者移譲について移譲者と継承者との間の資産の取り扱いや移譲方法等の注意点等について説明して頂きました。講演は大変分かりやすく、質問も多く出され、有意義な研修となりました。



宮尾会長開会挨拶



風神講師講演

3. 和海地方農業者交流会

9月12日に和海地方農業生活連絡協議会が海南市総合体育館で農業者交流会を開催しました。協議会に加入している各団体がスポーツを通じて交流を図るために毎年開催しています。今年はカローリング大会になってから4回目で16チーム48人が参加しました。カローリングはカーリングをヒントにして考案されたスポーツで、ジェットローラーを的に向かって転がし中心に近い方が高得点となるゲームです。

開会式の後に野上泰生副会長（和海地方青年農業経営者協議会長）らの始球式で競技が始まりました。年に1回ではなかなか上達は難しく、的を通り過ぎたり、届かなかったり、またはじき飛ばされたりする度に、笑いや歓声が起こりました。

地域や栽培品目が異なり、日頃あまり交流ができない会員同士が楽しく交流できる貴重な機会となっています。



開会式



カローリング競技

農業士会支部活動レポート

REPORT

那賀地方農業士会の活動について

那賀地方農業士協議会事務局

1. 那賀地方農業士協議会県外研修の開催

(那賀地方農業士協議会長 指導農業士 青柳市郎)

当協議会では、2月23日に宝塚市、箕面市においてスーパーマーケットを展開する(株)いかりスーパーマーケット及び箕面市の(株)箕面ビールを訪問し、先進地研修会を実施しました。

いかりスーパーからは、最近の農作物の動き及び今後注目する農産物について説明を受けました。とりわけ、今後は、有機栽培と酵素を組み合わせた栽培を行い、こだわりのある商品作りに取り組むと良いとの説明がありました。

箕面ビールでは、ビールの製造過程とビールと農産物とのコラボについて説明を受けました。



いかりスーパーのバックヤード



箕面ビールの製造工程

2. 那賀地方農業士協議会女性部会カトリア会研修の開催

(那賀地方農業士協議会女性部会カトリア会長 指導農業士 吉田佳代)

当女性部会カトリア会では、平成29年3月7日に6次産業化への取り組みについて「株式会社ふみこ農園」「株式会社小南農園」への先進地研修会を開催して農業士としてのスキルアップを図りました。

「ふみこ農園」の代表取締役 成戸文子氏は50歳から農産加工に組み入り、梅や果物等の加工を行って実績を上げ、今日の地位を築きました。特に、最近開発した梅グラッセは大変な人気で販売開始後、すぐに売り切れになるなどで生産に追われていました。

また、「小南農園」の代表取締役 太田直廣氏は、ミカン専門農家として古くから東京のスーパーマーケット紀伊國屋と取引しており、紀伊國屋から温州ミカンのジュース等の加工を進められたのがきっかけで現在に至っています。

最近では、特にみかん一つを丸ごと入れたゼリーを開発したことで、順調に営業実績を残しています。カトリア会の会員たちも、自分たちも現在取り組んでいる農産加工をもっと頑張らなければならないと認識を新たにしました。



ふみこ農園の研修



小南農園の研修

3. 紀の川市農業士会総代会・研修会の開催（紀の川市農業士会長 地域農業士 佐本 佳隆）

平成 29 年 3 月 24 日に紀の川市役所本庁舎大会議室において、総代会及び研修会を開催しました。

①総代会の開催

総代会では、会員、関係者合わせて 44 名の出席のもと、平成 28 年度活動経過並びに収支決算報告、平成 29 年度活動計画（案）並びに収支予算（案）続いて役員改選が、それぞれ議案書等のとおり承認されました。



紀の川市農業士会長 挨拶 佐本佳隆

②研修会の開催

総代会終了後には研修会として、1 部は会員 2 名による体験発表を行い、2 部は講師をお招きして講演が行われました。

体験発表のテーマは『私の農業』。青年農業士 小川真司氏から、「農業の雇用創出産業化を目指し～選択肢を増やして社会を豊かに～」と題して家庭で比較的消費されやすい野菜類の生産、担い手の育成、生産者主導の提案型契約栽培などに取り組むことで、農業が雇用創出産業として再評価されることや、農業が社会を豊かにする魅力のある産業となり、将来を担う子供たちにとって「農家」がなりたい職業の一つとなることを願っていると、今までの体験を語っていただきました。

続いて『農業に懸ける思い』をテーマに、「持続可能な農業を目指して」と題して、青年農業士 秦野欣也氏から、就農当初から、紀の川市環境保全型農業グループに加入して勉強し、エコファーマーの認定を取得するなど、長い年月にわたって持続可能な農業にするため地力の維持を第一に考えていること、さらに経営を安定させるため、桃の新品種導入、イチジクの面積拡大、白菜の作付け拡大を図り、栽培技術の向上により収入を確保するなど、日頃の農業経営への取り組みなどの発表を行っていただきました。

講演会では、「地域資源を活かした都市と農村の交流」と題して、和歌山大学 食農総合研究所 農学博士であり、特任教授の 辻 和良氏から、都市農村交流の活動について、その背景や意義、活動の種類、特徴などが説明されました。また、都市農村交流がもたらす効果に関して、収入や雇用の増加などの経済的効果とともに、元気になる、生きがいを感じる、農業農村の価値・魅力に気づく「鏡効果」などの非経済的効果が大きいことが紹介されました。

さらに、都市農村交流の活動のなかで市場規模が最も大きい「農産物直売所」について、めっけもん広場を事例として経済的効果、非経済的効果の内容を説明されるとともに、直売所が果たす役割や直売所を通じた都市農村交流の課題について紹介されました。また、地域資源を活かした都市農村交流の活動と活動成功のための課題について説明を行っていただきました。



体験発表：小川真司氏



体験発表：秦野欣也氏



講演：辻 和良氏

農業士会支部活動レポート

REPORT

伊都地方農業士連絡協議会の活動

伊都地方農業士連絡協議会事務局

1. 総会及び研修会の開催

4月25日、伊都地方農業士連絡協議会総会を九度山町ふるさとセンター5階大ホールにおいて開催し、全ての議案が承認されました。

また、総会後の研修会では「ファーマーズマーケットの現状と課題」と題して、「やっちゃん広場」店長木村佳弘氏からご講演を頂きました。

その中で木村店長は、開店から14年が経過し、京都、滋賀、兵庫方面からもご来店を頂き、客数、売上が伸びていること、近畿圏87店舗の大手スーパーとの生産者直売コーナー取組状況等を説明。高齢化や耕作放棄地が増加している中で「農業の楽しさを発信することが後継者育成に繋がるのでは」と農業士の役割に期待を寄せられました。また、「農業にはやりがい。楽しさ。食には人の笑顔がある」と締めくくり、出席した会員らは熱心に耳を傾けていました。



質疑に応答する木村店長

2. 女性部会研修会の開催

6月30日、女性部会（せきれい会：松岡 和美 会長）では、会員の親睦と地域農業の振興に役立てようと奈良県宇陀市にあるナント種苗（株）宇陀育種研究農場を見学。

この日、ナント種苗では特別見学会が開催されており、このイベントに合わせて会員6名が参加しました。

ハウスでは、スイカ、メロン、トマト、ミニトマト、カボチャ、根菜・葉菜等、作物毎に新品種、有望品種、珍しい品目等が展示され、それぞれにたわわに実り、また、果実が整然と一直線に並んでおり、技術レベルの高さに圧倒されました。

展示品目の中には、感動の白肉スイカ、とろける極上食感のメロン、糖度20度のトウモロコシのほか、赤アマランサス、コールラビなど珍しい作物もあり、また、試食コーナーではこれらの品種の味や食感の違いを確かめていました。参加者らは、種苗会社の担当者に思い思いに質問するなどしていました。



(株)ナント種苗の施設を見学

3. 滋賀方面への事例調査

1月24日、大型農産物直売所や農機会社のものづくりの仕組み体験を通して、自己研鑽と会員相互の親睦を図

るため、JA おうみ富士「おうみんち本店」（滋賀県守山市）「ヤンマーミュージアム」（滋賀県長浜市）を訪問。会員ら 16 名が出席しました。

「おうみんち本店」では、店長から当直売所の概要、販売現状等について説明を受けました。当店は平成 20 年にオープン、今年で丸 9 年。当直売所の特徴として、バイキングレストランが併設され、消費者交流の一環として、畑の直売所（収穫体験）や青空フィットネスクラブ（農業体験イベント）、専用車での出張販売等に取り組んでいました。また、当地は稲作のほか守山メロンの産地で 7～8 月の収穫時期には周辺から大勢のお客さんが来店されるとのことです。

ヤンマーミュージアムは、ヤンマーの創業者山岡孫吉（ディーゼルエンジンの小型化に世界で初めて成功）の偉業をたたえて生誕地の長浜市に記念館が建設され、館内の展示コーナーにはトラクター等の農機具や建設機械、船舶エンジン等が展示されていました。

本協議会では、これら視察研修を通して会員間の連携を強め、地域の活性化に繋げて行きたいと考えています。

4. 農業士、新規就農者との交流

2 月 7 日、伊都振興局において伊都地方農業士連絡協議会（廣田 哲也 会長）の研修会を開催し、農業士、4 H クラブ、新規就農者、市町等の関係者ら 45 名が出席しました。

初めに、伊都地方の農業の現状と今後の取り組み（大東主任）、農業者年金制度（県農業会議 向井元治氏）の講話に続いて、指導農業士の森口佳幸氏（橋本市）、藤井栄一氏（九度山町）、西垣俊秀氏（かつらぎ町）が自身の経営概要、今後の経営方針について発表されました。

森口氏は、農大卒業後、20 歳で就農。就農当初は約 4 ha の果樹複合経営でしたが、父親の病気を契機に条件の良い柿園約 1 ha に縮小し、現在では低農薬、化学肥料不使用の栽培に取り組まれています。今後、さらに労力軽減のため、低樹高化や作業道整備を進め、捨てるものをなくす観点から規格外品の販売先を増やして行きたいと述べられました。

藤井氏は、学卒後 3 年間の会社勤めを経験。2 年間の派米研修後 25 歳で就農。柑橘から柿栽培「刀根早生」に徐々に転換。経営面積の大半が借地で、2.5ha に拡大。ほぼ全園に園内道を敷設し、SS 利用による防除を実践。今後、労力不足解消のため、面積を 1.5ha 規模に縮小。ソーラー発電による点滴灌水やジョイント仕立てにも挑戦し、味を重視した柿作りで経営安定を目指したいと話されました。

西垣氏は、農大卒業、2 年間の派米研修後、JA に就職。13 年間指導員として勤務。35 歳で就農。10 年間、柿施設栽培に取り組みましたが、父の病気を契機に撤退。省力化、軽作業化のため、全園に園内道完備。今後、柿品種構成を見直し、富有柿を拡大。梅や直売仕向の柑橘等との複合経営を目指したいと話されました。

続いて、池田泰子副会長（橋本市）の進行で廣田会長、発表者 3 名と若手農業者との意見交換を実施。初めに 4 H クラブ員や新規就農者から自分の経営内容や困っている事について意見が出され、農業士から「野菜は種類が多いので、早く自分に合った品目を見つけること」などアドバイスをする展開での意見交換会となりました。

今後も、新規就農者や 4 H クラブ員との交流を盛んにし、本協議会が地域農業の活性化や就農支援の一役を担えるように取り組んでいきたいと考えています。



「おうみんち本店」伊庭本 店長から説明を聞く



4H クラブ員や新規就農者との交流

農業士会支部活動レポート

REPORT

有田地方農業士協議会の担い手育成への取り組み

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会（嶋田 勝彦 会長）では、生産技術の向上や農業経営の発展、情報交換による会員相互の交流などを目指し、講演会や現地研修会を実施するとともに、新規就農者など地域の青年農業者の育成や地域農業の振興などを支援しています。

また、同協議会の女性農業士で組織している女性部会（西川 一美 部会長）も精力的な活動を行っています。

今回、今年度の協議会活動のなかから、「アグリビギナー等技術経営研修」や「有田農業女子プロジェクト」への支援、有田地方4Hクラブ連絡協議会と合同で開催した現地研修会の取り組みなど、担い手育成の活動について紹介します。

1. 青年農業者への支援

7月4日に県果樹試験場で開催された「アグリビギナー等技術経営研修」で、新規就農者を含む青年農業者等との意見交換会が行われ、当協議会役員を中心とする9名の農業士が出席しました。

意見交換会では、参加者がグループに分かれ、農業士が各グループの進行役を務めるとともに、参加者からの日頃の農業のなかで困っていることや聞きたいことなどに対し、農業士が経験を踏まえた助言を行う形で進められました。

当日は終了時間まで途切れることなく話し合いが続き、農業士は青年農業者の実際の声を聞くことで、青年農業者は農業の先輩でもある農業士に日頃の悩みを相談し、助言を頂くことで、お互いに農業に対する思いを共有することができ、大変有意義な会となりました。



意見交換会（アグリビギナー）

2. 女性農業者への支援

今年度より有田振興局農業水産振興課が取り組んでいる「有田農業女子プロジェクト」において、7月7日と9月26日に果樹試験場で開催された研修会の後援として、有田地方農業士協議会女性部会が協力しました。

両研修会ともに講演会の後、女性農業士の協力のもとに意見交換会が行われ（延べ8名の女性農業士が出席）、女性農業士はグループ内の会話の流れをスムーズにするため



意見交換会（農業女子P）

に話題を振るだけでなく、今までの農業で培った知識や経験をもとに参加者の疑問や悩みにアドバイスを行うなど、活発な話し合いが行われました。

※「有田農業女子プロジェクト」の取り組み内容については、本誌第9号に掲載しております。

3. 4Hクラブとの連携

9月12日、有田地方4Hクラブ連絡協議会（井上 信太郎 会長）との合同による現地研修会を開催し、会員・4Hクラブ員と関係者ら併せて68名が参加しました。

本研修会は、管内の農業生産や農産加工、また市町の取り組みなど地域の優良事例を学ぶとともに、農業士と4Hクラブ員の相互交流を図ることを目的に、毎年有田地域内の各市町持ち回りで実施しており、本年度は有田市内の下記①～④事例について研修を行いました。

今回の研修を通じて、地元の先進的な取り組みを学ぶとともに、地域リーダーである農業士と将来の地域の担い手となる4Hクラブ員との交流も図ることができました。



①温州みかんマルドリ園の概要



②有限会社 ヒカル・オーキッドの取り組み



③有田市原産地呼称管理制度
「認定みかん」への取り組み



④アイデア満載！おもしろ倉庫への取り組み
～省力・省エネ型倉庫の概要～

4Hクラブとの合同研修会

当協議会では、このように会員相互や4Hクラブだけでなく、Uターン・Iターン等の新規就農者や女性農業者などの多様な担い手と研修や意見交換等を通じた交流活動に力を入れています。

今後、この取り組みを発展させ、農業者がそれぞれの立場で生き生きと活躍できる産地づくりにつなげていきたいと考えています。

農業士会支部活動レポート

REPORT

日高地方農業士会の活動について

日高地方農業士会事務局

1. 花育活動を実施

5月19日、日高地方農業士会（谷 廣美 会長）と日高地方花き連合会（佐藤 公彦 会長）は、共催で「花育」活動を実施しました。

この活動は、管内の小学生と支援学校の生徒を対象に、花に親しみ、花とふれあう機会を通して、豊かな心を育くむとともに、当地方が全国有数の花の産地であることを知ってもらおうと行っているもので、今年で9回目となります。

花き連合会会員が育て、無償提供したスターチスや宿根カスミソウ、カーネーション等約7,000本の切り花を花束にして、農業士会会員が管内の小中学校33校（支援学校含む）の全クラスに日高地方の花を紹介したパンフレット、参考資料とともに届けました。

33校のうち6校では、花束の贈呈式が行われ、両会会員が生徒代表に直接花束を手渡し、花に関する豆知識の講話を行いました。



贈呈式（上南部小学校）



生徒を囲んで（和田小学校）

2. 県議会議員との意見交換会を開催

7月27日に日高振興局別館会議室において、日高郡市選出県議会議員と日高地方の農業に関する課題について意見交換を行いました。地域のリーダーである農業士が日高地方の農業振興に資することを目的に、平成23年から隔年で開催しているもので、農業士会役員理事15名と県議会議員4名が出席しました。各市町の農業士会から提案があった「鳥獣害対策」、「耕作放棄地対策」、「野菜花き生産用ハウスの導入整備」を重点課題に意見交換を行いました。それぞれの課題について、県議会議員から提言や助言などいただき充実した意見交換となりました。



意見交換会の状況

3. 伊都地方への県内研修を開催（女性部会）

7月24日、日高地方農業士会女性部会（鶴尾 安代 会長）が伊都振興局農業水産振興課の協力を得て、かつらぎ町で先進地研修会を実施し、会員11名が参加しました。

最初に、レストランと農産物加工・販売施設を備えた「こんにゃく工房」において、6次産業化を積極的に展開する農事組合法人遊農の理事長楠尾肇氏から、農産物加工品の製造について研修した。販売、商品化、費用対効果等の製造に向けての基本的なことから実践まで色々なノウハウを伺いました。

次に、天野の里づくりの会会長の谷口千明氏から、天野地域交流センター「ゆずり葉」にて、天野の里づくりの会の取り組みについて研修した。農産物を活用した交流活動、「企業のふるさと」協定による異業種交流、田舎暮らしフェアへの参加による移住希望者の勧誘などの地域づくり活動の話をお伺いしました。



こんにゃく工房での研修



天野地域交流センターでの研修

4. 第31回地域農業を考える日高のつどいを開催

テーマ 「地域を広げて考えよう 日高の農業」

農業士会、生活研究グループ、4Hクラブで組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会では、1月24日、紀州農協印南支店において「第31回地域農業を考える日高のつどい」を開催し、会員、関係者約160人が出席しました。

講演1部では、和歌山地方気象台の調査官の原田延明氏から「気候変動の現状と農業分野での温暖化適応策について」と題して、昨今の気候変動の問題や農業分野での対策について有意義なご講演を頂きました。講演2部では、NPO法人日本健康運動指導士会和歌山県支部の支部長の川村護氏から「健康と運動の関わり」と題して、健康であるための運動の重要性について、有意義なご講演を頂きました。最後に情報提供として、日高振興局農業水産振興課主任の鳥居洋木氏から「鳥獣の生態と対策について」と題して、今まで業務に携わってきた経験からの対策について話を聞きました。



原田調査官の講演



川村支部長の講演

農業士会支部活動レポート

REPORT

会員の研鑽と交流を深める活動の実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

1. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月12日、西牟婁地方農業士連絡協議会（谷口 文治 会長）は、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、会員及び行政関係者等約85名が出席のもと、総会並びに研修会を開催しました。

本年度は役員改選により、木村則夫氏が会長に就任し、新体制にてスタートしました。会員は、新たに7名を加えて、153名となりました。

研修会は、3月末に定年で退任となった指導農業士3名による講演で、船本幸雄さんが「農の原点は農地～経営を譲れることの喜び～」、宮本正信さんが「今、思うこと…」、桐本久子さんが「安定した生活のできる農業を後継者に」と題し、農業の喜びや振興について話されました。

総会・研修会後に行われた意見交換会では、講演での提案を参考とした意見交換が活発に行われました。



新会員紹介



研修会（講師：指導農業士 OB）

2. 関係団体とともに“第26回SUN・燦紀南農業者の集い”を開催

8月28日、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、「地域の未来につながる 新・農業創生」をテーマに、西牟婁地方の農業士会、4Hクラブ、生活研究グループ主催によるSUN・燦紀南農業者の集いが開催され、生産者や関係者約110名が出席しました。

この集いは、西牟婁地方の農業者が地域の課題や農業農村の今後について検討・交流することにより、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的に年1回開催され、今年で26回目となりました。

研修会では、株式会社農業総合研究所 代表取締役社長 及川智正氏を講師に招き、「ビジネスとして魅力ある農産物の確立」と題して講演が行われました。

及川氏は、自らの農業体験や野菜販売などの経験を活かし、新たに農産物の流通を構築した農業ベンチャー

初の上場企業の起業者です。

生産者と都市部にある小売店を直接つなぎ、出荷拠点から翌日には希望する都市の売り場へ並べられるシステムの開発や、販売状況がわかるシステムの導入により、都市部消費者や生産者に大変喜ばれています。今後も、ITを活用して新しいことに挑戦していくとともに、魅力ある農産物ビジネスとして展開していくと話がありました。

その他、農業共済の新システム「収入保険制度」の内容について和歌山県農業共済組合南部支所長原井敏伸氏から説明がありました。



農産物の魅力について語る及川智正社長

3. 西牟婁地方農業士女性部会が梅の消費拡大活動を実施

10月10日と10月17日、西牟婁地方農業士会女性部会員（6名）が、特産物である梅を都会の子供たちにも知ってもらい、消費に繋げようと大阪府立の支援学校（2校）の小・中学生を対象に、梅の座学と加工体験実習（冷凍梅を使ったジュースづくり、梅ジュースの試飲）を実施しました。

座学では、部会員が「梅の一年」をパワーポイントを使って、梅の花や生長する様子、栽培方法、梅干ができるまでの作業等を説明した後、梅の加工品や機能性を紹介しました。

また加工実習では、梅ジュースの作り方を実演し、児童が冷凍梅を使ったジュースづくりの体験を行いました。その後、梅ジュースの試飲を行いました。

児童からは、「梅ジュースができるのが楽しみ」、「梅ジュースがとても美味しかった」などの感想と、「梅のお菓子を教えてほしい」、「梅の栄養成分を知りたい」など質問もあり、梅への関心が高まったようです。

また、家庭や学校の給食に使ってもらえるように白干し梅と梅レシピも配布し、梅のPRも行いました。



座学（梅の一年）



梅ジュースづくり体験

今後も、子供たちに梅の座学や加工体験を通じて梅の魅力を伝えるとともに、保護者へも梅のPRを行いながら、梅の消費拡大に繋げていきます。

農業士会支部活動レポート

REPORT

東牟婁地方農業士会の活動について

東牟婁地方農業士会事務局

1. 総会及び研修会を開催

4月13日、東牟婁地方農業士会（杉浦 仁 会長）は、南紀月野瀬温泉ぼたん荘において、総会及び研修会を開催し、会員及び行政関係者約20名が出席しました。

総会では事業報告、事業計画（案）及び役員改選について議事がなされ、原案のとおり承認されました。

研修会では、平成30年秋から加入申請が開始される「収入保険制度」や、農作業時の安全対策について、普及指導員が説明しました。

意見交換会では、地域農業の振興や農業士会の今後の活動内容等について、活発に話し合いました。



杉浦会長あいさつ



総会

2. スクミリングガイ（ジャンボタニシ）駆除対策説明会を開催

6月14日、新宮市内の水田・用水路でスクミリングガイが発見されたことから、みくまの農業協同組合みさき支所において、駆除対策説明会が開催されました。

指導農業士の道阪耕一氏が発見経緯等の説明を行った後、農業水産振興課職員がスクミリングガイの来歴・生態、被害状況や、駆除・対策方法等について、農協職員が駆除・防除薬剤等について説明を行いました。

道阪氏は参加者全員に地域・組織的な対策が非常に重要であるということと呼びかけ、地域全体でスクミリングガイの早期撲滅に向けて取り組むこととしました。



駆除対策説明会



指導農業士 道阪耕一氏が呼びかけ

3. 那智勝浦町農産物品評会で農産物即売会を実施

11月25日、第41回那智勝浦町農産物品評会会場の那智勝浦町体育文化会館において、東牟婁4Hクラブと合同で農産物即売会を行いました。

品評会では、那智勝浦町の農業士をはじめ多くの農業者から農産物109点が出典されました。

即売会は、天候にも恵まれたことから会場のテントには多くの人たちが訪れました。

キュウリ、トルコギキョウ、イチゴ、ほうじ茶等の会員が栽培した新鮮な農産物や加工品は短時間で売り切れました。

なお、農産物等の売り上げの一部は農業士会に寄付され、これからも活発な活動を行っていく予定です。



農産物即売会



農産物品評会

県農林大学校学生です。

～農林大学校農学部1年生の自己紹介&近況報告(第2回)～

園芸学科

私の出身地は貴志川町です。私がこの農林大学校に入学したきっかけは、私の父と祖父母が農業をされており、農業を継ぎたいと思ったからです。まだ入学して半年で、まだまだわからないことばかりですが、毎日の授業や実習を通して、精神的にも体力的にも成長できたらいいなと思っています。将来は、いったん社会に出て一般常識を学んでから実家の農業を継ぎたいと思っています。つらいこともあると思いますが、努力していきたいと思っています。



高岡 信太郎



高橋 未来

私は、紀の川市出身です。高校では農業の基本的な事を学びましたが、もう少し深く農業について勉強したいと思い、農林大学校に入学しました。

農大では、野菜コースを専攻しています。農大は、高校よりもたくさんの種類の作物や品種を育てているので、覚えなければいけない事が多く、日々苦戦しています。しかしながら、苦手な事にも皆と取り組み、毎日楽しく実習に取り組んでいます。

農大生活もあっという間で、残り約1年ですが、楽しい学校生活を送りたいです。

私が農林大学校に入学した理由は、高校生の時に自分で作った野菜が美味しかったので、この大学校で野菜についてもっと学びたいと思ったからです。

将来の目標は、自分の畑を持って、みんながおいしいと喜んでくれる野菜を生産し、自給自足の生活が出来たらいいと思っています。

また、和歌山県に誇れるブランド品を発信できるように頑張りたいと思っています。



土井 小矢香



中西 裕也

僕の出身地はかつらぎ町です。僕の母校は紀北農芸高校で、高校時代は果樹コースでした。そこで果物の栽培や収穫に魅力を感じ、高校を卒業した後、もっと果物について勉強したいと思ったので農林大学校に進学しました。農大でも果樹コースを専攻しており、たくさんの人達に果樹について知ってもらいたいので、僕が果樹についてたくさん勉強している人達に果樹の魅力伝えたいと思っています。家は農家ではないですが、畑があるので、将来は、一から作り直して農家をしたいです。

私は、有田市出身で、実家は柑橘を作っています。趣味は読書と音楽鑑賞です。

和歌山県農林大学校を目指した理由は、実家が柑橘農家を営んでおり、いずれは家の仕事を継ぐためです。農大に来るまでは実家の農業以外には触れたこともありませんでしたが、農大で柑橘のこと以外にも、多くを学び、実家を継ぐときに農大で得た知識や経験を役立てられるように頑張りたいです。

2年間という限られた時間で多くのものを得られるように頑張ります。



.....



私の出身地は和歌山県海南市下津町で、出身校は和歌山工業高校です。なぜ工業高校に進学したかと言うと小さい頃から始めた野球を続けたかったからです。

私の家は専業農家をしており、小さい頃から父や母、家族の背中を見て育ってきました。そのうちに農家に対する憧れと就農したいという意思を持ち、農業について勉強するために農林大学校に進学しました。入学前は、農大は、おもしろくないところだろうと少し偏見を持っていましたが、入学してみると思った以上に楽しく、今ではみんな仲良く過ごさせています。これからたくさんの研修や試験が待ち受けていますが、友人と助け合いながらがんばっていきたいと思います。

.....

私は、紀の川市打田出身で、出身校は県立粉河高等学校の普通科です。私は、小さい頃から兼業農家の祖父の手伝いをしていて、農業に興味を持つようになり、農林大学校に入学しました。そして、米の裏作でたまねぎやエンドウなどを栽培していて、野菜に興味があったので、野菜コースを専攻しました。私自身ほとんど農業に関する知識がないので、農林大学校で農業についての知識や技術を学び、将来に活かせるようにこの2年間の実習や授業をまじめに取り組んでいきたいです。



.....



私は、南部高校出身で、高校時代は陸上部に所属し、円盤投げと槍投げの選手として活動していました。また、農業クラブ活動では梅枝堆肥プロジェクトのリーダーとしてメンバーと協力して研究を進めていました。

実家は梅の専業農家で南高梅をはじめ様々な品種の梅を栽培しています。高校時代、私は「高校で農業の事を勉強したら良い」と思っていました。しかし、2年生の時に「もっと農業の事を勉強したい」と思ったのがきっかけで農林大学校に進学する事にしました。私は、この学校で梅に限らず様々な資格取得や作物の栽培技術の習得をして、卒業後は地域の農業を担う人材になりたいです。

アグリビジネス学科

私は、大阪府立農芸高校出身で、高校の時は果樹を専攻していました。そして将来、農業における6次産業化の発展に携わる職業に就きたいと考え、なおかつ高校で得た果樹の知識を更に伸ばし活かす為に、果樹王国と呼ばれている和歌山で学び、そこで職へと繋がれたら最高だと思い和歌山県農林大学校のアグリビジネス学科に入学しました。まだまだ未熟者ですが、農林大学校でたくさんのことを学び将来へと活かして行きたいです。



.....



私は、非農家出身ですが、農業生産に興味があったので、和歌山県農林大学校に入学しました。体を動かすことや、家の草刈りをするのが好きです。農大では、花きコースを専攻し、花を中心に勉強していますが、花きコース以外のことも勉強したいと思っています。病害虫や経営についてもしっかり勉強して、本格的に作物を作れるようになりたいと思っています。卒業後は、農業生産に関わる仕事に就きたいと思っています。

.....

私の家は非農家で、農業をするなんて想像もできませんでしたが、紀北農芸高校で農業クラブを知ってから農業に興味を持ち始め、もっと知識を深めたいと思い、和歌山県農林大学校に入学しました。新設されたアグリビジネス学科で、栽培技術に加え、加工や流通の事も学んでいます。自分の知らないことや分からないことはわかりやすく教えてもらえるのでとても楽しいです。将来は、農業関連や加工を行っているところに就職をしたいと思っています。これからもこの農林大学校で様々なことを学んでいきたいと思っています。



.....



私は、中学校3年の時にJAに就職しようと思い、和農大に行くため、紀北農芸高校に入学しました。なぜ、JAに就職しようと思ったのか、それは、自分の友達が、将来の目標をキチンと考えている人ばかりだったのですが、当時、自分は何も考えておらず、周りに影響されて将来のことを真剣に考えるようになり、JAの営農指導員になりたいと思うようになりました。JAに行くには、農大で農業に関する技術や知識を身につけ、園芸技術員の資格を取る必要があるので、農業に関する知識をより深め、実習で実践し、JAに就職できるようにがんばって行きたいです。

地域の逸品!!

プラムキッチンの果実等加工品

紹介者

紀の川市 地域農業士

高井 恵美
山田 和美

プラムキッチンとは、JA 紀の里かがやき部会の加工品出荷グループの一員です。
四季の果実等を使って、創意工夫を行い、地産地消を図るため、加工に取り組んでいます。
これからも、自ら生産した地元の果実等で、商品を開発して、販売拡大につなげていきたいと考えています。

1. 商品紹介

「みかんマーマレード」は、新鮮なみかんに添加物を使用せず、まるごと使っているため、風味と香りが楽しめます。

果実を使ったジャムは、「桃と梅のミックスジャム」、「キウイジャム」があります。

「さつまいもの蒸しパン」は、メーカーの蒸しパン粉を使用することにより味のばらつきがなく仕上がります。懐かしい味で高齢者に好まれ、子供さんにも喜ばれています。



みかんマーマレード



キウイジャム



さつまいもの蒸しパン

2. 商品の規格と価格

・みかんマーマレード	1 瓶 150 g	400 円 (税込価格)
・キウイジャム	1 瓶 150 g	400 円 (税込価格)
・桃と梅のミックスジャム	1 瓶 150 g	400 円 (税込価格)
・さつまいもの蒸しパン	1 袋 3 個入	150 円 (税込価格)

3. お問い合わせ先等

JA 紀の里ファーマーズマーケット めっけもん広場

紀の川市豊田 56-3

TEL 0736-78-3715

営業時間 AM 9:00 ~ PM 5:00

地域の逸品!!

山椒は小粒で、ピリリと辛い!! 「かんじゃ山椒園」の山椒加工品

紹介者

有田川町 元地域農業士
永岡冬樹



紹介者と「山椒」

かんじゃ山椒園は、古くから「山椒」の栽培が行われ、「ぶどう山椒」発祥の地とされる有田川町（旧清水町）にあります。

ここで栽培された高品質の「山椒」を使い、粉山椒、おろし山椒、山椒水煮、山椒味噌、山椒佃煮、山椒香油など、様々な加工品を製造・販売をしています。

当園では、栽培から加工・販売まで一貫することにより、最良のものを、最高の状態でお届け致します。

1. 商品の紹介 ～「山椒」に込めた思い～

最近になってようやく「山椒」ということばをTVや雑誌などでも見かけるようになってきました。10年ほど前、山椒に携わるようになった頃、県民であっても和歌山県が日本一の産地であることさえ知らない人が大半でした。

長らく当地域の山間地で収益性が高い作物として取り扱われていた山椒が、生産過剰になり価格が暴落し、生産者の高齢化も相まって、あきらめにも似た空気が流れていた時期でもありました。

しかしながら私は、日本一の山椒を活かさない手はないと考えていました。

市場に出回っているものを見てみると、山椒の本当の良さである風味豊かなものがほとんど無かったことから、逆に可能性を感じました。



山椒の実

そこで、山間地の限られた圃場で収益を上げ経営を成り立たせるためには、次のような戦略でやってみようと思えました。

- ① 高品質高付加価値の製品づくり。(徹底的に品質にこだわり品質世界一を目指す)
- ② ①の製品を購入してもらうターゲットとその販売チャネルの設定。
(百貨店、高級スーパー、料亭、高級レストランなど)
- ③ 活用者の意見反応を聴く機会をつくる、新たな食べ方の提案。
(出張販売、カフェ開業)

これらに向け、ラベルや味付けを検討しながらの商品づくり、価格設定や流通の経路の選定などには気をつけてきました。そして、「イイものをつくれば、世界中からでも買いに来てくれるはず」との思いで取り組み続け、10年間かかりましたが、本当に世界の一流と言われる方々からも注文を頂くようになりました。

ホンモノを創り、送り届けるという、人の繋がりが齎（もたら）してくれたもので、ここを原点とし山間地域の活性化につなげたいと思っています。



「山椒」加工品

2. お問い合わせ先

かんじゃ山椒園

〒643-0512 有田川町宮川129

TEL 0737-25-1315 Fax 0737-23-7980

<http://www.sansyou-en.com>

地域の逸品!!

和歌山田辺の「きてら」 俺ん家ジュース

紹介者

田辺市 指導農業士

木村 則夫



田辺市上秋津の農産物直売所「きてら」は、地域課題解決を目的に平成11年、農家や地域住民が出資しあって誕生したコミュニティビジネスの会社です。農産物の直売や地元のみかんやオレンジを使用した、無添加のストレートジュースを作っています。

秋津野と呼ばれている上秋津は、3方を山に囲まれてはいますが、西に開けた地形から段々畑には紀伊水道からの潮風が吹きこむという、みかん栽培には恵まれた自然環境があります。ここでは、1年を通してみかんや柑橘が採れることでも有名であります。また、紀州南高梅の生産地でもあります。

1. 商品の紹介

●柑橘の果汁だけを搾ったジュース

ジュースの搾汁機はアメリカ製で、皮の渋みが入らないように絞り、味の調整などはしていません。生産者がつくった美味しい柑橘の味わいをそのままお楽しみいただけます。

温州みかん、清見、バレンシアオレンジなど多くの種類のジュースを絞っています。きてらの生産者が栽培したものだけを使用し、栽培から製造まで一貫して作られる美味しく安心安全なジュースです。

●紀州南高梅を使ったこだわりの梅ドリンク

紀州南高梅を使う贅沢なジュースです。氷砂糖でうめ果汁を抽出するといった、昔ながらのシンプルな加工方法で出来上がった梅ドリンクで、すっきりとしたさわやかな味に仕上がっています。冷やしてから飲むと、喉の渇きも一気に解消されます。



俺ん家の詰めあわせセット



俺ん家の梅ジュース 500ml

2. お問い合わせ先等

秋津野の農産物直売所「きてら」

代表 森山 薫博

住所 〒646-0001 田辺市上秋津 1487-1

TEL 0739-35-1177

ホームページ <http://kiteraga.com> きてらが・どっと・こむ

農業士認定事業について

県農林水産業のリーダーを認定 ～ 平成 29 年度認定式を開催 ～

和歌山県農林水産部経営支援課

2月20日、和歌山市内で平成29年度の認定式を開催し、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している方々に対し、農業士、林業士、漁業士の認定証を交付しました。今回の認定により、県内の農業士は822名となりました。

式典で、知事は「それぞれが経営力を高め、後進を指導していただきたい」と述べて今後の活躍への期待を表明しました。これに対し、紀の川市の指導農業士 中浴泉さんが認定者を代表して「地域力を高めるため、より一層努力します」と決意を表明されました。



知事から認定証を交付

また、今年度で定年を迎えられる指導農業士19名の方々には感謝状が贈呈されました。今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです（敬称略）。



長年にわたり活躍された指導農業士へ感謝状を贈呈

認定者の皆様 74名

指導農業士認定者 21名

氏名	市町村名
南方 一誠	和歌山市
竹田 和正	和歌山市
古田 好美	紀美野町
原 成吾	紀の川市
小坂 博子	紀の川市
中 浴 泉	紀の川市
山名 知津	紀の川市
林 光彦	岩出市
西 嘉彦	橋本市
岡本 善樹	湯浅町
周参見 俊孝	有田川町

氏名	市町村名
林 幹雄	有田川町
谷 畑 進	有田川町
山本 清晶	有田川町
松川 哲朗	みなべ町
二葉 美智子	みなべ町
瀬戸 佐知子	日高川町
中村 佳美	日高川町
中村 秀美	日高川町
山本 由美	田辺市
中道 昭人	田辺市

地域農業士認定者 37名

氏名	市町村名
森本 敬子	海南市
坂口 正樹	紀の川市
小川 真司	紀の川市
厚地 恵太	紀の川市
青柳 佑幸	紀の川市
小川 信久	紀の川市
前田 直樹	紀の川市
林 澄代	紀の川市
笠原 淳一	橋本市
木多浦 清子	かつらぎ町
山本 悟	かつらぎ町
西岡 宏倫	かつらぎ町

氏名	市町村名
北田 和子	九度山町
阪中 智子	九度山町
丹下 晴夫	九度山町
松本 智行	有田市
酒井 寛之	湯浅町
原野 つよし	湯浅町
浅井 栄基	広川町
西本 史人	御坊市
庄門 孝浩	印南町
矢戸田 誠	印南町
片山 清範	みなべ町
長坂 公一	みなべ町

地域農業士認定者 37名 (つづき)

氏名	市町村名
平野 圭寿代	みなべ町
睦又 康全	日高川町
高垣 元樹	田辺市
澁谷 文彦	田辺市
澤田 幹男	田辺市
濱本 賢作	田辺市
谷本 恭一	田辺市

氏名	市町村名
法忍 岳史	田辺市
平田 崇士	上富田町
杉浦 満紀	那智勝浦町
太田 美保	那智勝浦町
狩野 秀子	那智勝浦町
赤埴 友則	串本町

青年農業士認定者 16名

氏名	市町村名
中道 裕一	海南市
得津 力	紀の川市
大原 康平	橋本市
生地 弘季	橋本市
小柳 大和	かつらぎ町
北村 真文	湯浅町
崎山 慎一	広川町
寺下 大輔	御坊市

氏名	市町村名
村上 貞男	印南町
中早 大輔	みなべ町
山口 文孝	田辺市
米田 壮伺	田辺市
高垣 行雄	田辺市
丸谷 和樹	白浜町
前地 孝俊	上富田町
辻本 圭次	串本町

※おことわり

今回の認定より、推薦は対象者の住所地だけでなく営農地の市町村からでも可能となりました。そのため、上記の「市町村名」は認定者の推薦市町村名を記載しています。

感謝状を受けられた皆様 19名

氏名	市町村名
山 本 薫	和 歌 山 市
高 岡 久 人	和 歌 山 市
峯 本 稔	海 南 市
岩 鶴 修 嗣	紀 の 川 市
畑 敏 之	紀 の 川 市
青 柳 市 郎	紀 の 川 市
楽 得 吉 彦	紀 の 川 市
笠 松 美 智 子	岩 出 市
森 脇 佐 太 代	九 度 山 町
玉 置 成 朝	九 度 山 町
畑 義 人	湯 浅 町
大 野 修 作	広 川 町
武 内 久 典	有 田 川 町
三 輪 敏 郎	有 田 川 町
楠 見 和 也	御 坊 市
崎 山 新 一	日 高 町
松 川 嘉 之	み な べ 町
山 下 繁 一	田 辺 市
高 垣 せ り	田 辺 市

(参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (60 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

平成 30 年3月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	154 名 (うち女性	29 名)
地域農業士	531 名 (うち女性	51 名)
青年農業士	137 名 (うち女性	1 名)
合 計	822 名 (うち女性	81 名)



表紙の人

橋本市 指導農業士

廣田 哲也さん

廣田さんは、柿 (2ha、うち施設 13a) を中心に施設切り花 (トルコギキョウ 5a) との複合経営を営まれています。園内道設置、SS 等の機械導入、低樹高化により、農作業の軽労化、効率化や施設栽培による高品質化で経営安定に取り組まれています。

和歌山の農業士 第 10 号

発行日：平成 30 年 3 月

編 集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印 刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

